

第2章 沿線地域の主要な観光資源と入込観光客

1 観光資源

(1) 中国・四国の観光資源

ア 入込観光客数でみた県別の上位10観光地

中国・四国の主要な観光地・施設について、平成13年の入込観光客数をもとに、県別に上位10観光地・施設をみると、次表の通りである。

(注) 毎年各県が行う観光客動態調査の方法については、全国的に統一されたものはなく、用語も様々である。本章では、観光客数については「入込観光客数」という用語を統一して用いることにする。

これによると、各県の上位クラスの観光地・施設には、ほぼ全域にわたって、次の3つの類型に属するものが目立つ。

由緒ある神社・仏閣

出雲大社、一畑薬師、太鼓稲成神社、吉備津・最上稲荷、厳島神社、防府天満宮、松陰神社、金刀比羅宮、総本山善通寺など

中国・四国の入込観光客数でみた県別の上位10観光地(施設) (平成13年)

(単位:千人)

| 鳥 取 県 | | 島 根 県 | | 岡 山 県 | | |
|-------|----------------|-------|-------------------|-------|-------------------|-------|
| 1 | とっとり梨の花温泉郷周辺 | 1,686 | 出雲大社(大社町) | 2,086 | 倉敷美観地区(倉敷市) | 2,916 |
| 2 | 米子・皆生温泉周辺 | 1,517 | しまねワイナリー(大社町) | 1,117 | 蒜山高原(川上村、八束村) | 2,686 |
| 3 | 境港周辺 | 1,409 | 石見海浜公園(浜田市) | 1,063 | 玉野・渋川(玉野市) | 2,107 |
| 4 | 大山周辺 | 1,247 | 日御碕(大社町) | 971 | 鷲羽山(倉敷市) | 1,519 |
| 5 | 鳥取砂丘・いなば温泉郷周辺 | 1,177 | 太鼓稲成神社(津和野町) | 943 | 吉備津・最上稲荷(岡山市) | 1,475 |
| 6 | 東伯耆周辺 | 797 | 玉造温泉(玉湯町) | 763 | 倉敷子ボリ公園(倉敷市) | 1,409 |
| 7 | 浦富海岸・岩井温泉周辺 | 398 | 一畑薬師(平田市) | 694 | 湯郷温泉(美作町) | 938 |
| 8 | 八頭 | 270 | 三瓶山(大田市) | 590 | 後楽園(岡山市) | 694 |
| 9 | (皆生温泉)(米子市) | 512 | 道の駅キララ多岐(多伎町) | 413 | 湯原温泉(湯原町) | 632 |
| 10 | (三朝温泉)(三朝町) | 455 | 道の駅湯の川(斐川町) | 409 | 高梁(高梁市) | 607 |
| 広 島 県 | | 山 口 県 | | 徳 島 県 | | |
| 1 | 厳島神社(宮島町) | 1,331 | 防府天満宮(防府市) | 1,498 | 吉野川ハイウェイオアシス(三好町) | 1,237 |
| 2 | 平和記念資料館(広島市) | 1,078 | 海響館(水族館)(下関市) | 1,213 | 渦の道(鳴門市) | 811 |
| 3 | 鞆の浦(福山市) | 1,062 | 道の駅「萩しーまーと」(萩市) | 1,199 | あすたむらんど徳島(板野町) | 459 |
| 4 | みろくの里(沼隈町) | 600 | 秋芳洞・秋吉台(秋芳町) | 971 | 祖谷のかずら橋(西祖谷山村) | 299 |
| 5 | 安佐動物公園(広島市) | 456 | 湯田温泉(山口市) | 939 | うだつの町並み(脇町) | 179 |
| 6 | 国営備北丘陵公園(庄原市) | 452 | 湯本温泉(長門市) | 770 | 太龍寺ロープウェイ(鷲敷町) | 144 |
| 7 | 三次ワイナリー(三次市) | 410 | 松陰神社(萩市) | 755 | 阿波おどり会館(徳島市) | 122 |
| 8 | 耕三寺(瀬戸田町) | 409 | 錦帯橋(岩国市) | 663 | 大鳴門橋架橋記念館(鳴門市) | 57 |
| 9 | 土師ダム(八千代町) | 400 | 香山公園・洞春寺(山口市) | 499 | ドイツ館(鳴門市) | 49 |
| 10 | 大佐・掛頭山(芸北町) | 394 | 長門峡(阿東町) | 486 | 阿波十郎兵衛屋敷(徳島市) | 48 |
| 香 川 県 | | 愛 媛 県 | | 高 知 県 | | |
| 1 | 与島(坂出市) | 2,926 | 道後温泉入浴客(松山市) | 1,279 | アパ・ソムニョーアム(香北町) | 191 |
| 2 | 金刀比羅宮(琴平町) | 2,860 | 松山城ロープウェイ(松山市) | 896 | 高知城懐徳館(高知市) | 189 |
| 3 | 総本山善通寺(善通寺市) | 1,142 | 県立とべ動物園(砥部町) | 503 | モネの庭マルモック(北川村) | 185 |
| 4 | 津田の松原サビシア(津田町) | 687 | 石鎚山ハイウェイオアシス(小松町) | 436 | 龍河洞(土佐山田町) | 174 |
| 5 | 屋島(高松市) | 583 | 東宇和物産会館(宇和町) | 436 | 県立のいち動物公園(野市町) | 168 |
| 6 | 栗林公園(高松市) | 526 | 多々羅しまなみ公園(上浦町) | 397 | 県立牧野植物園(高知市) | 132 |
| 7 | さぬきこどもの国(香南町) | 472 | 川内町ふるさと交流館(川内町) | 386 | 黒潮本陣(温泉)(中土佐町) | 131 |
| 8 | 塩江温泉郷(塩江町) | 385 | 湯ノ浦温泉(今治市) | 373 | 県立龍馬記念館(高知市) | 126 |
| 9 | 八栗寺(牟礼町) | 368 | えひめこどもの城(松山市) | 365 | 土佐和紙工芸村(伊野町) | 124 |
| 10 | 亀山公園(丸亀市) | 366 | 虹の森公園(松野町) | 347 | 西島園芸団地(南国市) | 107 |

- (注) 1. 数字は入込観光客(利用者)数。
 2. イベントは除く。
 3. 鳥取県は広域観光エリア別の入込観光客数。
 4. 徳島県及び高知県は観光施設利用者数に限る。

(資料) 各県入込観光客調査により作成。

著名な温泉地

皆生、三朝、玉造、松江、湯郷、湯原、湯田、湯本、道後など

優れた自然景観・体験（山・高原・峡谷、海・島）

大山、三瓶山、蒜山高原、鷲羽山、秋芳洞・秋吉台、祖谷、石鎚山など

鳥取砂丘、日御碕、石見海岸、玉野・渋川、鞆の浦、長門峡、与島、屋島など（前表にはないが、高知の桂浜、足摺岬、室戸岬等もこれに該当）

上記のほか、各地に次のような集客力を有するユニークな観光地・施設がある。

歴史的町並み・構築物

倉敷美観地区、錦帯橋など

動植物園・水族館

石見海浜公園アクアス（水族館） 安佐動物公園（広島） 海響館（下関・水族館） とべ動物園（松山）など

テーマパーク・遊園地

倉敷チボリ公園、みろくの里（広島） あすたむらんど徳島、さぬきこどもの国、アンパンマンミュージアム（高知）など

公園・庭園

後樂園、栗林公園、モネの庭マルモッタン（高知）など

博物館・美術館

平和記念資料館（広島）など

産業観光・産業遺跡観光

しまねワイナリー、三次ワイナリーなど

道の駅型複合施設（休憩・情報交流・地域連携等の複合施設）

道の駅キララ多岐（島根） 道の駅湯の川（同） 道の駅「萩しーまーと」 吉野川ハイウェイオアシス、与島（香川） 津田の松原サービスエリア（同） 石鎚山ハイウェイオアシス（愛媛）など

イ 市町村別入込観光客数

観光資源の優劣は、一般的には集客力の多寡によって測ることができるが、具体的には、各県がそれぞれ独自の方法で調査・推計している入込観光客数が、集客力を測る主要な指標になる。

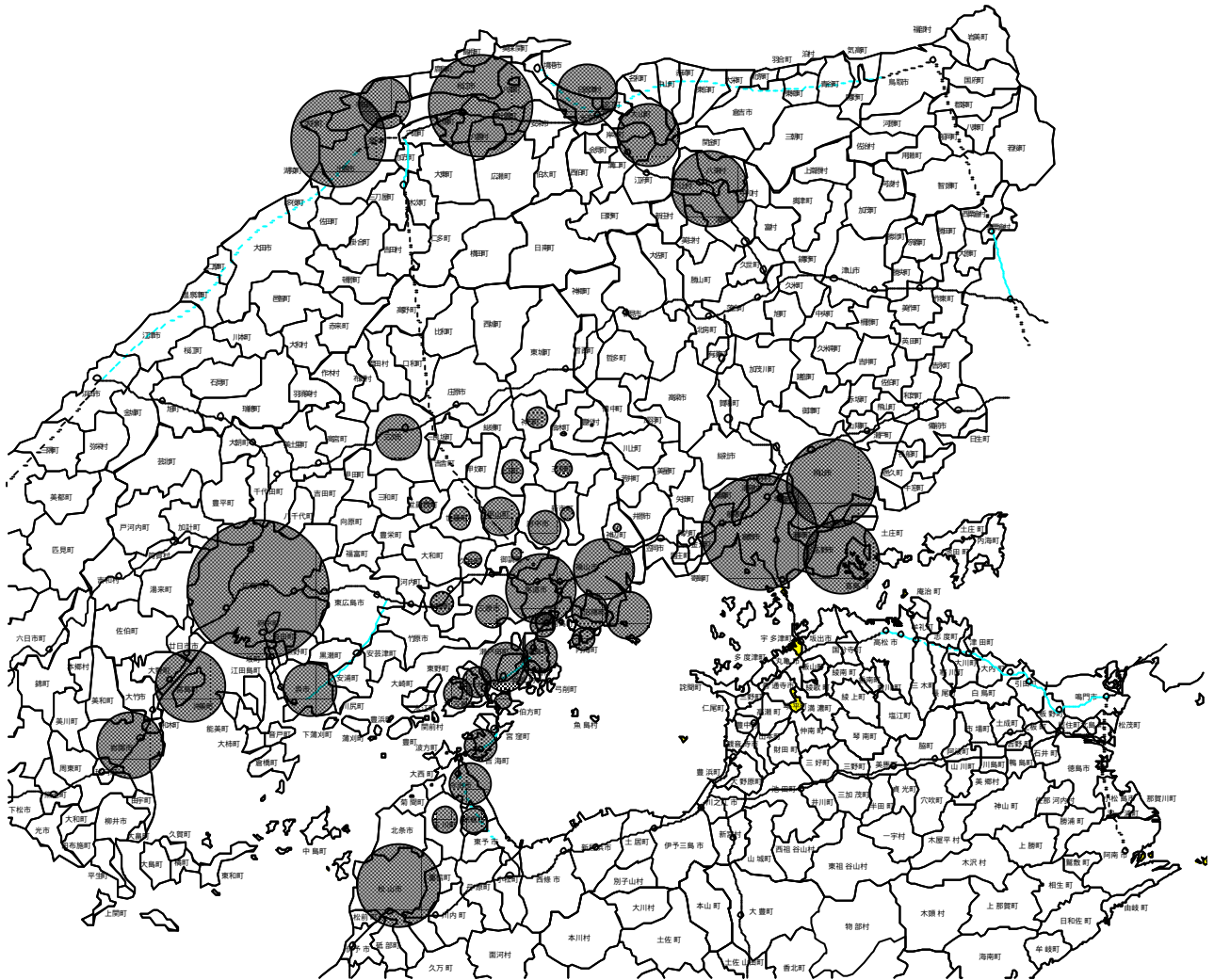
次図は、「しまなみ海道」沿線地域を中心に、背後の岡山県、広島県、島根県出雲地域、愛媛県松山地域の範囲について、年間入込観光客数を市町村別にプロットしたものである。

それによると、地方中枢・中核都市が、周辺の著名な観光地と結びつくことによって、岡山～倉敷、広島～宮島～岩国、出雲～松江～米子～大山・蒜山といった形で、いくつかのゾーンが形成されている。

「しまなみ海道」沿線地域の集客力は、上記の地方中枢・中核都市のレベルに比較すると相当程度劣るが、広島県側の尾道～福山から、広島、愛媛両県の「しまなみ」沿線島嶼部、さらに今治周辺にかけて、中小規模の集客力を有する市町がつながり、ベルト状のゾーンを形成している。

相対的に密度の濃い、こうしたベルト状のゾーンは、山陰の出雲～松江～米子～大山～蒜山のスケールには及ばないが、これら山陰の外海・高原型に対して、内海・島型のゾーンとしてのポテンシャルを有しているようにみられる。

「しまなみ海道」を中心とした中国・四国の市町村別入込観光客数（平成13年）



（資料）各県入込観光客調査により作成。

(2)「しまなみ海道」に関連した観光資源

ア 沿線地域の観光資源の特徴

「しまなみ海道」沿線地域には、地域色豊かな観光資源が全域にわたり分布している。

主要な観光資源を類型別に区分し、地域別分布をみると、極めて大まかには、広島県側は文学・芸術系に特色がある。一方、愛媛県側は、連歌（大山祇神社）や書道（村上三島）に代表される大三島を広島県側との接点として、農漁村（多自然居住地域）をセールスポイントとするグリーンツーリズム系に特色がみられる。

主な類型ごとには、神社・仏閣等では、広島県側は寺院、愛媛県側は神社に著名なものが目立つ。尾道市（浄土寺等）～瀬戸田町（耕三寺・向上寺等）～大三島町（大山祇神社）がルートを形づくっている。

テーマパーク・遊園地・産業観光拠点等の集客施設では、主として花卉・果樹をテーマとした施設が広く分布している。テーマ性において、地場産業とのかかわりが強い産業観光施設としては、瀬戸田町（シトラスパーク）、大三島町（伯方の塩工場、塩湯）、沿線外の朝倉村（タオル美術館）がある。

「しまみ海道」沿線地域の主要観光資源

| | 神社・仏閣等 | 博物館・美術館 | テーマパーク・遊園地 産業観光拠点等 | 公園・展望台・グリーン ツーリズム拠点 | 温泉・宿泊施設 | 交差点施設 | その他 |
|------|--------------------------------|------------------------------------|-----------------------|--|---------------|--|------------------|
| 尾道市 | ・浄土寺 ・西国寺 ・千光寺 | ・尾道市美術館 ・おのみち文学の館 ・おのみち映画美術館 | | ・千光寺公園 ・ひんご重松園 | 柳屋 旅館8 1,889人 | ・しまみ海道旅館 ・尾道市カヌー | ・文学のみち ・タイル川路 |
| 向島町 | | | ・向島羊かんセンター | ・立花自然村 ・立花緑地公園 ・向島パークスタジアム ・向島重松園 ・高見山 | 柳屋 旅館1 39人 | | ・林映画「あした」ロケセット |
| 因島市 | ・金蓮寺 ・蒲刈早川氏五輪塔 ・白竜山と五百羅漢 | ・本因坊秀篇記念館 | ・因島カセカ | ・因島大権造公園 ・因島アメニティ公園 ・因島公園 ・因島重松園 | 柳屋 旅館17 58人 | ・芸予文化センター | ・因島水軍城 |
| 瀬戸市 | ・耕三寺 ・向上寺 ・光月坊 | ・平山伏美術館 | ・光川カネ瀬戸 | ・生口権造公園 ・観音山公園展望台 ・サンセットビーチ | 柳屋 旅館15 74人 | ・ペリカントホール | |
| 上浦町 | | ・村上三島記念館 | | ・多々羅しまみ公園 ・立石展望台 ・鼻栗瀬戸展望台 ・戸板海岸 ・盛海水浴カサカサ場 | 柳屋 旅館1 170人 | ・しまみ海道交流センター ・しまみ海道美術館 | ・因島熊野神社「小みかひん」 |
| 大三島町 | ・大三島神社(宝物館) | ・大三島美術館 | ・伯方の塩大三島工場 | ・大三島公園 ・鷲ヶ頭山 ・大三島の村重松園 | 柳屋 旅館13 45人 | ・しまみ海道駅御島 | ・サクラ海大三島(塩湯) |
| 伯耆町 | ・喜多浦藩陣地 | | | ・開山展望台・開山公園 ・ふるさと歴史公園 ・伯方ビーチ ・沖瀬ビーチ | 柳屋 旅館10 290人 | ・マリノアス伯方 | ・船折瀬戸 |
| 宮島町 | | ・能登村水軍陣地館 | ・石文重松園 | ・カレイ山展望台 | 柳屋 旅館1 173人 | | |
| 吾島町 | | ・郷土文化センター | ・ハラ公園 | ・竜老山展望公園 | 柳屋 旅館1 35人 | ・ハラ公園図書館 ・よしうみサカサカタツシイ館 | |
| 今治市 | | ・今治市埋没館 | ・野間島ヒランド | ・来島御乗取館 ・唐子兵衛水浴場 ・志島ヶ原 ・市民の森カバク ・近見山 | 柳屋 旅館14 222人 | ・湯ノ浦温泉 ・サカサカタツシイ「サカサカ山」 ・今治しまみ観光物産館 ・今治地方観光センター | ・今治城 ・小島芸子墓跡 |
| 参考 | | | ・外美術館OKURA | | | | |
| 玉川町 | | | | | ・鈍川温泉 | | |

(注) 温泉・宿泊施設欄は、市別ごとの施設数・定員(人)を示す。但し、施設数が民間・公共宿泊施設、その他の宿泊施設を含む。

(資料) 瀬戸内しまみ海道局及び地域振興協議会「Htrain」をベースに、広島・愛媛県の観光インフラ等参考して作成した。

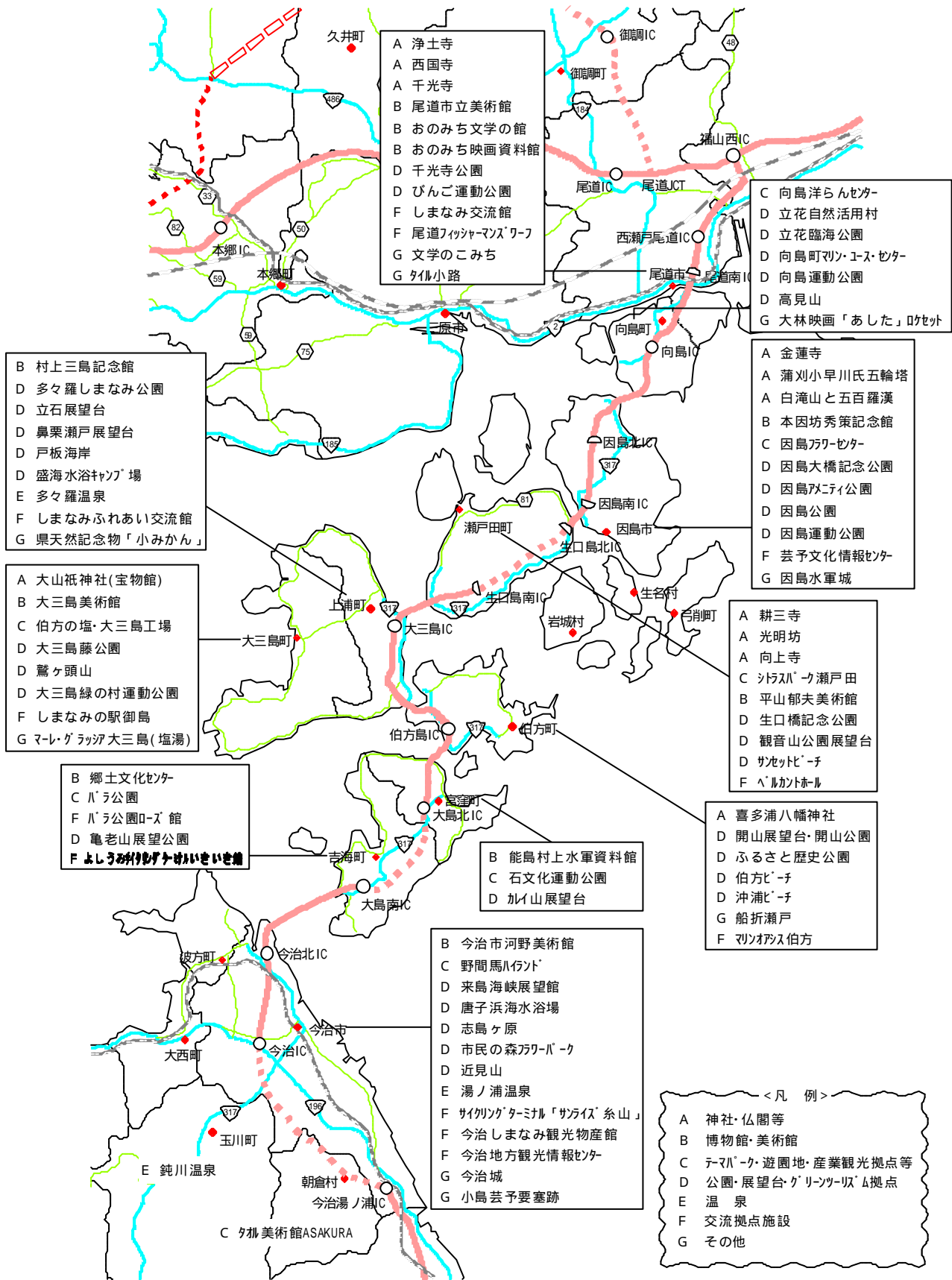
全国的に、産業ないしは産業遺産が観光資源として見直されている中で、鋼製の商船建造では瀬戸内最古級の歴史を有する造船(商船)に関わる産業観光・産業遺産観光の施設はない。

グリーンツーリズム系の施設は、ほぼ全域に分布している。なかでは、向島町(マリン・ユース・センター等)と今治市(サイクリングターミナル等)が、沿線のほぼ両端にあって、拠点的な機能を担い得る位置にある。

滞在型観光を考えた場合、基点となる温泉・宿泊施設が重要な役割を担うことになる。沿線地域では、滞在型温泉地は今治市(湯ノ浦温泉・平成13年利用者約37万人)に1ヶ所、同市に隣接する玉川町(鈍川温泉・平成13年利用者約32万人)に1ヶ所あるが、これら以外にはない。上浦町(多々羅温泉・平成13年利用者約5万人)の温泉は非滞在型である。ホテル・旅館・民宿・公共宿泊施設等は全域に分布しているが、定員(計約7,300人)の約6割が、尾道、今治両市に集中している。

道の駅タイプの休憩・情報交流・地域連携等の複合的な機能をもつ施設が全国的に整備されているが、沿線地域では、愛媛県側にその種の施設が多い。本州からの周遊ルートでは、愛媛県沿線島嶼部～今治周辺が昼食・休憩・散策等の時間帯に当たるほか、それらの地域が、愛媛県民のレクリエーション・ゾーンとしても利用されているものとみられる。

「しまなみ海道」沿線地域の主な観光資源分布



イ 主要施設の利用状況

沿線地域の主要観光施設の利用者数は次の通りである。「しまなみ海道」が全通した平成11年に各施設とも急増したが、全通フィーバーの終息に伴い、平成12年以降は概して減少傾向にある。

その一方で、伯方の塩大三島工場（平成12年6月オープン）、マーレ・グラッシア大三島（塩湯、平成13年4月オープン）、沿線外のタオル美術館ASAKURA（平成12年4月オープン）など、全通後に新規開設された施設では、地元の常連客にも支えられて利用客を伸ばしているものもある。

概して、本州との間の架橋が先行して整備された広島県側（平成3年12月には生口橋まで完成）に対して、愛媛県側の観光・集客施設の整備は後発であったため、比較的新鮮みをもつことができたと思われる。

主要観光施設の利用者数の推移

（単位：人）

| | | 平成9年 | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 |
|------|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 尾道市 | 千光寺山ロープウェイ | 253,169 | 240,868 | 330,350 | 263,659 | 228,159 |
| | 尾道市文学記念室 | 33,042 | 28,277 | 26,705 | 20,115 | 18,248 |
| | 尾道市立美術館 | 31,924 | 25,475 | 26,386 | 19,570 | 7,119 |
| 向島町 | 洋らんセンター | 33,945 | 47,620 | 61,224 | 28,133 | 45,127 |
| 因島市 | 因島水軍城 | 58,253 | 33,110 | 119,928 | 60,266 | 33,710 |
| | 因島フラワーセンター | 154,556 | 111,924 | 310,126 | 129,312 | 91,666 |
| 瀬戸田町 | 耕三寺 | 419,551 | 377,866 | 1,332,770 | 687,637 | 408,863 |
| | シトラスパーク瀬戸田 | | 288,158 | 501,857 | 193,952 | 110,842 |
| | 平山郁夫美術館 | 195,356 | 201,293 | 714,401 | 354,957 | 238,248 |
| 上浦町 | 多々羅しまなみ公園 | | | 1,373,920 | 634,700 | 397,413 |
| | 多々羅温泉 | 53,645 | 59,818 | 105,543 | 79,238 | 49,824 |
| | 村上三島記念館 | | | 56,222 | 21,124 | 10,057 |
| 大三島町 | しまなみの駅御島 | | | | 127,486 | 116,666 |
| | 大三島美術館 | | | | 15,059 | 8,880 |
| | マーレ・グラッシア | | | | | 142,747 |
| | 大山祇神社宝物館 | 86,450 | 64,628 | 448,388 | 216,225 | 118,913 |
| | 伯方の塩大三島工場 | | | - | 13,427 | 42,331 |
| 伯方町 | マリンオアシス伯方 | | | | 154,095 | 127,732 |
| | ふるさと歴史公園 | | | | 14,616 | 16,283 |
| 宮窪町 | 石文化運動公園 | | | | 33,511 | 26,766 |
| | 能島村上水軍資料館 | | | | 17,649 | 11,940 |
| 吉海町 | いきいき館 | | | | 174,500 | 142,500 |
| | ローズ館 | | | | 122,700 | 117,300 |
| | 郷土文化センター | | | | 12,013 | 9,562 |
| | バラ公園 | | | | 156,600 | 136,300 |
| | 亀老山展望台 | | | | 133,000 | 112,200 |
| 今治市 | 来島海峡展望館 | | 176,703 | 568,540 | 217,740 | 167,650 |
| | サンライズ糸山 | | | 340,460 | 216,100 | 186,600 |
| | 湯ノ浦温泉 | | | | 358,478 | 372,756 |
| | 野間馬ハイランド | 164,320 | 118,201 | 147,766 | 149,345 | 139,545 |
| | 今治城 | 28,348 | 25,475 | 65,745 | 38,232 | 27,167 |
| 朝倉村 | タオル美術館ASAKURA | | | - | 214,860 | 287,687 |
| <参考> | | | | | | |
| 福山市 | 鞆の浦 | 820,000 | 795,000 | 1,109,000 | 1,031,000 | 1,062,000 |
| 広島市 | 平和記念資料館 | 1,412,919 | 1,267,685 | 1,192,589 | 1,086,956 | 1,078,250 |
| 宮島町 | 厳島神社 | 1,900,821 | 1,545,337 | 1,376,672 | 1,325,000 | 1,331,322 |
| 松山市 | 道後温泉入浴客 | 1,340,150 | 1,315,425 | 1,454,369 | 1,316,103 | 1,279,227 |
| | 道後温泉宿泊客 | 998,084 | 1,096,610 | 1,298,491 | 1,067,399 | 890,964 |

（注）鞆の浦は施設利用ではないが、備後の主要観光地として参考のためとりあげた。

（資料）広島県『広島県入込観光客の動向』、愛媛県『観光客数とその消費額』、一部市町調べによる。

ウ 「しまなみ海道」を利用したバスツアーの立ち寄り・宿泊観光地

「しまなみ海道」を利用した広島発のバスツアー（平成14年秋～冬）の立ち寄り・宿泊観光地をみると、時間的な制約の多いバスツアー（日帰り又は1泊2日）ということもあって、本州四国間のルートとして、「しまなみ海道」のみを利用した場合と、「しまなみ海道」と瀬戸大橋を併用した場合とで、当然のことながら、カバーできる地域範囲が異なり、一定のルート別棲み分けがなされている。

「しまなみ海道」のみ利用の場合

「しまなみ海道」沿線、東予、中予、伊予灘・佐田岬までが主要なコースとなり、一部は南予、足摺岬まで延びる。

「しまなみ海道」と瀬戸大橋を併用の場合

東予、中予、伊予灘・佐田岬、南予、足摺岬、高知、安芸・室戸岬までの西回り、丸亀・琴平、大歩危・祖谷の東回りに分かれるが、吉野川、鳴門・徳島を除く四国にほぼ及んでいる。但し、香川、徳島両県での旅程はかなり大きく制約される。

「しまなみ海道」をルートに組み込んだバスツアーの観光・宿泊場所（広島発）

（数字は観光・宿泊地として設定された商品数）

| 「しまなみ海道」沿線 | 山 陽 | 愛 媛 県 | 高 知 県 | そ の 他 | |
|----------------|-------|-------------|---------|-------------|---|
| <広島県> | <広島県> | <東予> | <足摺岬周辺> | <九州> | |
| ・平山郁夫美術館 | 1 | ・今治タコ会館(食) | 1 | ・カゴ博物館(食) | 1 |
| <愛媛県> | | ・タコ美術館 | 3 | ・あしずりスカイライン | 1 |
| ・大山祇神社(食) | 3 | ・寒風山 | 1 | ・足摺岬・灯台 | 1 |
| ・大山祇神社 | 3 | <中予> | | ・足摺温泉郷(泊) | 1 |
| ・マルゲラツタ大三島(塩湯) | 1 | ・四国海産物センター | 2 | <高知周辺> | |
| ・伯方塩工場 | 1 | ・愛媛お菓子館 | 3 | ・高知・かつお船(食) | 1 |
| ・しまなみ宝船 | 1 | ・伊予かすり会館 | 1 | | |
| ・吉海町バラ公園 | 1 | ・砥部焼き陶芸館 | 1 | | |
| | | ・道後温泉郷(食) | 3 | | |
| | | ・道後温泉郷(泊) | 2 | | |
| | | ・興居島 | 1 | | |
| | | <伊予灘・佐田岬方面> | | | |
| | | ・タヤけこやけライン | 1 | | |
| | | ・道の駅きらら伊方 | 1 | | |
| | | ・佐田岬マリンライオン | 2 | | |
| | | ・愛媛みかん狩り | 1 | | |
| | | ・佐田岬(食) | 1 | | |
| | | <南予> | | | |
| | | ・宇和島・和霊神社 | 1 | | |

(注) 1. 本四3橋のうち「しまなみ海道」のみを利用した広島発のバスツアーが対象。但し、一部区間をフェリーを利用した商品を含む。

2. (食)は食事場所、(泊)は宿泊地の略。文字圏は宿泊地。

(資料)広島市内の主要旅行業者6社の平成14年11月～15年1月間の商品広告にもとづき作成。

「しまなみ海道」と瀬戸大橋の両ルートを用いたバスツアーの観光・宿泊場所（広島発）

（数字は観光・宿泊地として設定された商品数）

| 山 陽 | 愛 媛 県 | 高 知 県 | 香 川 県 | 徳 島 県 | | |
|---------|----------------|------------|---------------|--------|------------|---|
| <岡山県> | <東予> | <足摺岬周辺> | <瀬戸大橋> | <剣山周辺> | | |
| ・由香山蓮台寺 | 1 | ・宿毛道の駅 | 1 | ・与島(食) | 3 | |
| | ・今治 | 1 | ・カゴ博物館(食) | 3 | ・咸臨丸クルージング | 1 |
| | ・今治タコ会館(食) | 2 | ・足摺黒潮市場 | 5 | <丸亀・琴平周辺> | 2 |
| | ・タコ美術館(食) | 1 | ・足摺海底館 | 1 | ・琴平温泉郷(食) | 3 |
| | ・マインビア別子 | 2 | ・足摺岬・灯台 | 5 | ・金刀比羅宮 | 3 |
| | ・石鎚芸術村チロリの森(食) | 1 | ・竜串 | 2 | <高松周辺> | 1 |
| | ・寒風山トリコ | 1 | ・足摺・金剛福寺 | 1 | ・塩江温泉郷(泊) | 1 |
| | ・面河溪谷 | 1 | ・足摺温泉郷(泊) | 8 | | |
| | <中予> | | ・奥四万十川遊覧船(食) | 4 | | |
| | ・四国海産物センター(食) | 1 | ・ゆういんぐ四万十 | 4 | | |
| | ・道後温泉郷 | 1 | <高知周辺> | | | |
| | <伊予灘・佐田岬方面> | | ・須崎・魚菜市场 | 2 | | |
| | ・伊予灘サビミア(食) | 2 | ・道の駅いの | 2 | | |
| | ・佐田岬(食) | 1 | ・高知・かつお船 | 3 | | |
| | <南予> | | ・土佐魚菜市场(食) | 1 | | |
| | ・内子の町並み | 2 | ・横浜がーデン(食) | 2 | | |
| | ・イルミネア洲(食) | 1 | ・土佐刀物会館 | 2 | | |
| | ・ハイエルストラ宇和島(食) | 1 | ・桂浜 | 14 | | |
| | ・レストハウス宇和島 | 2 | ・高知城 | 2 | | |
| | ・宇和島 | 2 | ・高知(泊) | 6 | | |
| | ・宇和島真珠館 | 1 | ・高知横浪(泊) | 1 | | |
| | ・宇和海公園 | 1 | ・西島園芸団地 | 1 | | |
| | | | ・アンパソマン列車 | 1 | | |
| | | | ・アンパソマンミュージアム | 1 | | |
| | | <安芸・室戸岬周辺> | | | | |
| | | ・安芸・野良時計 | 1 | | | |
| | | ・室戸岬 | 2 | | | |
| | | <剣山周辺> | | | | |
| | | ・別府峡 | 1 | | | |

(注) 1. 本四3橋のうち「しまなみ海道」と瀬戸大橋を、往復のルートで適宜使い分け、併用した広島発のバスツアーが対象。

2. (食)は食事場所、(泊)は宿泊地の略。文字圏は宿泊地。

(資料)前掲表注参照

瀬戸大橋のみ利用の場合

参考のために、瀬戸大橋のみ利用のケースでは、高知県のほか、丸亀・琴平、高松、小豆島、大歩危・祖谷、吉野川、鳴門・徳島、徳島県太平洋沿岸など、東四国の広い地域がカバーされ、さらに淡路島まで延びるケースもある。

瀬戸大橋をルートに組み込んだバスツアーの観光・宿泊場所（広島発）

（数字は観光・宿泊地として設定された商品数）

| 愛媛県 | 高知県 | 香川県 | 徳島県 | その他 |
|---------------------------------|--|---|---|---|
| <東予> ・石鎚神社 <中予> ・松山椿神社 | <高知周辺> ・高知(食) ・高知日曜市 ・桂浜 ・高知城 ・西島園芸団地 ・土佐刃物会館 ・みかん狩り ・よさこい温泉(泊) ・日本一の大杉 <安芸・室戸岬周辺> ・土佐くろしお鉄道 ・高知・海洋深層水露天風呂 ・安芸 ・安芸・野良時計 ・モネの庭 ・室戸岬 | <丸亀・琴平周辺> ・世界のガラス館 ・丸亀(食) ・中津万像園・丸亀美術館 ・うちの港ミュージアム ・善通寺 ・世界のオルゴール館 ・四国ニューランド村 ・琴平(食) ・琴平 ・金刀比羅宮 ・琴平温泉郷 <高松周辺> ・休暇村五色台 ・四国葉草ハブセンター ・栗林公園 ・屋島 ・高松(泊) ・庵治温泉(泊) ・女人高野・大窪寺(食) <小豆島> ・寒霞渓(食) ・土淵海峡 ・小豆島大観音 ・二十四の瞳館・映画村 ・柳ノ公園・佃煮のふる里 ・小豆島手延べそうめん館 ・土庄(泊) ・小豆島温泉(泊) | <剣山周辺> ・小歩危峡 ・大歩危峡 ・祖谷溪(食) ・祖谷溪谷 ・祖谷かずら橋 ・平家屋敷民俗資料館 ・祖谷温泉(泊) <吉野川本流沿い> ・池田 ・うだつのある町・脇町 ・あんみつ館 ・御所温泉 <徳島・鳴門周辺> ・鳴門大橋 ・渦の道 ・鳴門公園 ・大塚国際美術館 ・鳴門温泉(泊) ・徳島(食) ・眉山 ・徳島(泊) ・阿波の関所・立江寺 <太平洋沿岸> ・日和佐・薬王寺 ・穴喰温泉 | <瀬戸大橋> ・与島(食) <岡山県> ・最上観音 <淡路島> ・淡路島・黒水仙郷 ・淡路夢舞台・奇跡の星の 植物園 |

(注) 1.本四三橋のうち瀬戸大橋のみを利用した広島発のバスツアーが対象。但し、帰路に明石ルート又はフェリー利用の商品を一部含む。

2.(食)は食事場所、(泊)は宿泊場所の略。文字圏は宿泊地。

(資料) 前掲表参照。

広島発のパックツアーの場合は、「しまなみ海道」全通後3年半が経過した現時点では、沿線地域の主要な観光対象は新鮮みが薄れ、四国各方面へのツアーのコースとして、滞留時間も短くなっているとみられる。

四国各方面へのツアーは、日帰り周遊型とともに、宿泊地を拠点として周辺の観光地をエンジョイする拠点型が多く売り出されている。宿泊地としては、道後、足摺、よさこい、庵治、塩江、祖谷、鳴門、小豆島等の温泉郷、もしくは高知、高松、徳島等の中核都市が選ばれている。

周遊型観光への対応では、滞留性を高めるために常に新鮮さを提供できる継続的なりニューアル・追加投資やイベントの展開が必要となる。

拠点型観光への対応としては、地域資源を活かし、農漁業や地域の総合力を投入して、地域色豊かな宿泊拠点づくりが求められる。

エ イベント

1年を通じて最も盛り上がる、各市町の代表的なイベント(延べ数)は、春2、夏7、秋2で、沿線地域の場合も、夏型になっている。

代表的なイベントのテーマは、各地の伝統も受け継いで多様であり、ユニークなものになっているが、1つの特色は、水軍を正面から取り上げている勇壮なイベントである(因島市、宮窪町)

代表的なもの以外を含むイベント全体としては、春のイベントとして、「花」をテーマに取り上げているものが多い。(菊、洋らん、桜、藤、バラ、さつき等)

「しまなみ海道」沿線地域の主なイベント

| | 春(3~5月) | 夏(6~8月) | 秋(9~11月) | 冬(12~2月) |
|------|--|---|--|---|
| 尾道市 | <ul style="list-style-type: none"> 4月第4土曜、日曜 尾道みなと祭 | <ul style="list-style-type: none"> 7月下旬(土曜) 住吉祭(尾道水道) 8月18日 吉和の太鼓踊り (浄土寺) | <ul style="list-style-type: none"> 10月27日~11月18日 尾道大菊花大会 (千光寺公園) 11月3日 ベッチャー祭 | |
| 向島町 | <ul style="list-style-type: none"> 3月上旬 特別らん展 (洋らんセンター) 3月中旬 向島フラワーバザール 向島町洋らんバザール | <ul style="list-style-type: none"> 7月中旬 向島の夏祭り | <ul style="list-style-type: none"> 11月第2日曜 にこびんしゃん祭り | <ul style="list-style-type: none"> 12月上旬 向島町洋らんバザール (洋らんセンター) |
| 因島市 | <ul style="list-style-type: none"> 5月3~5日 因島春のフラワー祭 (ワワ-センター) | <ul style="list-style-type: none"> 7月下旬 本因坊秀策囲碁まつり 8月第1金曜、土曜 宮島祭 8月第1土曜 いんのしま水軍花火 大会(土生水道) 8月15、16日 法楽踊 8月最終土、日曜 因島水軍まつり (大浜町) | <ul style="list-style-type: none"> 10月中旬の日曜 近島相撲大会 | <ul style="list-style-type: none"> 1月下旬 本因坊秀策囲碁まつり |
| 瀬戸田町 | <ul style="list-style-type: none"> 3月最終日曜 ねはん会(光明坊) 4月第1日曜 名荷神楽(名荷神社) 5月第2日曜 母の日法要供茶式 (耕三寺) | <ul style="list-style-type: none"> 8月14日 天秤祭り(名荷) 8月16日 瀬戸田町夏祭り 8月 灯籠流し(瀬戸田水道) 9月10日前後 観月会 | <ul style="list-style-type: none"> 11月3日 茶筌供養法要供茶式 (耕三寺) | |
| 上浦町 | <ul style="list-style-type: none"> 3月上旬(土曜) 長寿社会寿フェスティバル 4月7日 多々羅さくらまつり 5月5日 多々羅子供まつり | <ul style="list-style-type: none"> 7月28日 サ-フェスティンかみうら | <ul style="list-style-type: none"> 9月15日 多々羅ひらめまつり 10月6日 多々羅夢まつり 10月20日 多々羅夢岬 観月会 | <ul style="list-style-type: none"> 1月12日 ふるさと産業文化まつり |
| 大三島町 | <ul style="list-style-type: none"> 4月29日 藤まつり | <ul style="list-style-type: none"> 6月2、3日 大山祇神社例大祭・後 宮祭 6月15日 御田植祭(大山祇神社) 7月20日 三島水軍鶴姫まつり 7月27日 しまなみ薪能 8月初旬 かいでんま | <ul style="list-style-type: none"> 9月28、29日 大山祇神社産須奈大祭 10月14日 抜穂祭(大山祇神社) | <ul style="list-style-type: none"> 1月下旬 大三島町産業文化祭 |
| 伯方町 | <ul style="list-style-type: none"> 4月20、21日 春市 | <ul style="list-style-type: none"> 6月上旬 ほたる祭り 6月下旬 虫送り 8月14日 はかた夏祭り | <ul style="list-style-type: none"> 10月15日 秋祭り 11月3、4日 伯方産業・文化祭 | <ul style="list-style-type: none"> 1月中旬 とんど焼き 2月11日 弓放し |

(注) 文字囲のあるイベントは各市町の代表的なイベント。

(資料) 広島県『広島県観光便覧 平成14年版』、愛媛県『えひめイベントBOX 2002』

| | 春(3~5月) | 夏(6~8月) | 秋(9~11月) | 冬(12~2月) |
|-----|---|--|---|--|
| 宮窪町 | <ul style="list-style-type: none"> ・3~4月(各月第1日曜) 宮窪の漁師市 ・4月6,7日 能島桜祭り ・5月1~3日 島四国へんろ市 | <ul style="list-style-type: none"> ・7月14日 水軍レース ・7月中旬 能島水軍フェスティバル ・8月第2日曜 能島水軍弓道大会 ・8月11日 能島水軍納涼祭り | <ul style="list-style-type: none"> ・10月13~14日 秋祭り ・11月上旬 宮窪町産業文化祭 | <ul style="list-style-type: none"> ・2月9日 とんど祭り |
| 吉海町 | <ul style="list-style-type: none"> ・5月1~3日 島四国へんろ市 ・5月25,26日 バラ祭りよしうみ(春) | <ul style="list-style-type: none"> ・8月盆 町民盆踊り大会・花火大会 | <ul style="list-style-type: none"> ・10月13,14日 吉海町秋祭り ・10月下旬 バラ祭りよしうみ(秋) ・11月上旬 吉海町文化祭 | |
| 今治市 | <ul style="list-style-type: none"> ・5月上旬 今治地方春祭 ・5月11,12日 今治タオルフェア ・5月下旬 今治城さつき展 | <ul style="list-style-type: none"> ・7月下旬 サン・アピ火の祭典 ・8月3,4日 今治市民のまつり “おんまく” | <ul style="list-style-type: none"> ・9月7,8日 ちびっ子のま馬まつり ・10月5,6日 今治せんいまつり ・10月6日 湯ノ浦温泉まつり ・10月12~14日 今治商人まつり ・10月25~27日 今治タオルフェア ・10月下旬~11月上旬 今治城菊花展・盆栽展 ・11月9,10日 サン・アピ`五もくまつり | <ul style="list-style-type: none"> ・12月8日 サン・アピ`リタイズ`今治フェスティバル |

地域性については、広島県側が、観て楽しむオーソドックスなタイプが多いのに対して、愛媛県側は、地場産業・地場産品にかかるイベントが多い点が特徴的である。広島県側の観賞型に対して、愛媛県側は産業観光型・体験型が特徴とも言える。

愛媛県側の地場産業・地場産品にかかるイベントは次の通りである。

- ・上浦町 ... ひらめ(秋)、柑橘(冬)
- ・伯方町 ... 春市(春)、産業・文化祭(秋)
- ・宮窪町 ... 漁師市(春)、産業文化祭(秋)
- ・今治市 ... タオル(春・秋)、せんい(秋)、商人(秋)

2 入込観光客

(1) 概況

ア はじめに（入込観光客に関する両県のデータについて）

『広島県入込観光客の動向』では、次の事項について、市町村別推計データが毎年公表されている。

- ・地元客・県内客・県外客別入込観光客数
- ・県外客の発地別 "
- ・目的別 "
- ・旅行形態別（一般・団体・修学旅行別、日帰り・宿泊客別） "
- ・利用交通機関別 "
- ・月別 "
- ・観光消費額

（上記以外に）主要有料観光施設の月別利用者数

愛媛県の『観光客数とその消費額』では、県全体については、上記に準ずる事項にわたり推計データが毎年公表されているが、県内の地区別データとして公表されているのは、次の事項に関するものである。

- ・観光地区別（6地区別）
 - 県内観光客数（地元客を含む）発地別県外観光客数
- ・主要観光施設別
 - 利用者数
- ・宿泊施設別
 - 宿泊者数
- ・交通機関別
 - フェリー、高速船、航空機、路線・高速バス等のルート別入込客数（ほかに鉄道、貸切バス、高速道路IC出入交通量）

上記のような事情から、広島県沿線の2市2町については、市町別の入込観光客に関するデータが利用できたが、愛媛県沿線については、市町別データが得られず、「東予今治地方・瀬戸内海地区」のデータによって代替するほかなかった。

（注）「東予今治地方・瀬戸内海地区」は今治市、東予市、丹原町、越智郡の範囲で、沿線地域外の越智郡一部島嶼、しまなみ海道延長上の今治～丹原間の市町が含まれている。

イ 入込観光客数

広島県沿線2市2町及び今治・島嶼における平成13年の入込観光客数は約925万人で、単純には比較できないが、中国・四国最大の広島市（約923万人）にほぼ並ぶ規模になっている。

今治・島嶼の入込観光客数には地元客が含まれている点を考慮する必要があるため、県外客のみについてみると、沿線地域（両県）は約536万人で、広島市（約820万人）の約3分の2の規模であり、松山・道後（約396万人）を上回っている。

（注）1. 広島県側の入込観光客数には地元客を含まないが、愛媛県側には含む。

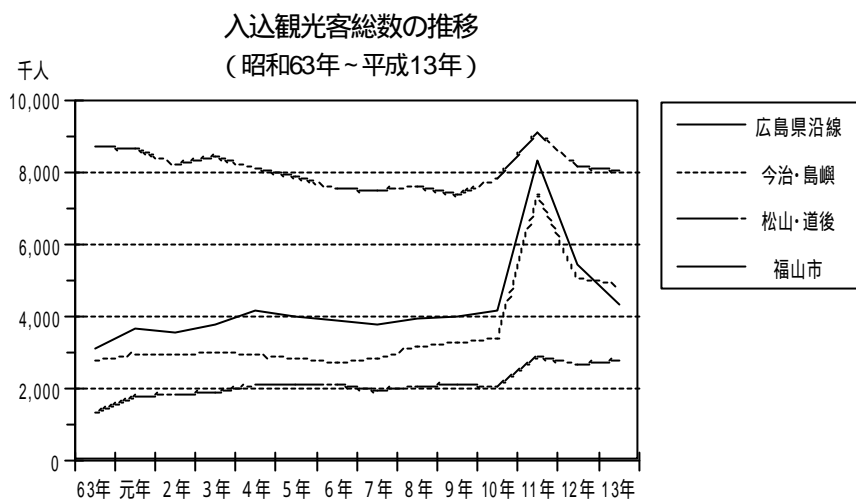
2. 今治・島嶼は、愛媛県が設定している観光地区の「東予今治地方・瀬戸内海地区」（上記）、松山・道後は「松山地方道後温泉郷地区」（松山市など3市6町）

ウ 入込観光客数の推移

広島、愛媛両県で県内客の規定が異なるために、広島県沿線（2市2町）と愛媛県沿線（今治・島嶼）を分けて、瀬戸大橋開通の年である昭和63年以降の入込観光客総数の推移をみると、両沿線とも、平成10年

まで概ね横這い傾向を続けた後、平成11年の「しまなみ海道」全通を機に一挙に倍増したが、その反動で、翌平成12年、さらに平成13年にかけて大幅に減少している（逆V字型の落ち込み）
 平成13年の水準を「しまなみ」全通の前年（平成10年）と対比すると、広島県沿線は4.9%増、今治・島嶼は42.9%増である。

ちなみに、広域的な観光名所「鞆の浦」のある福山市では、瀬戸大橋開通以後の強含み横這いから、平成11年には「しまなみ」効果で大きく伸びたが、その後も比較的小幅の減少にとどまっている。

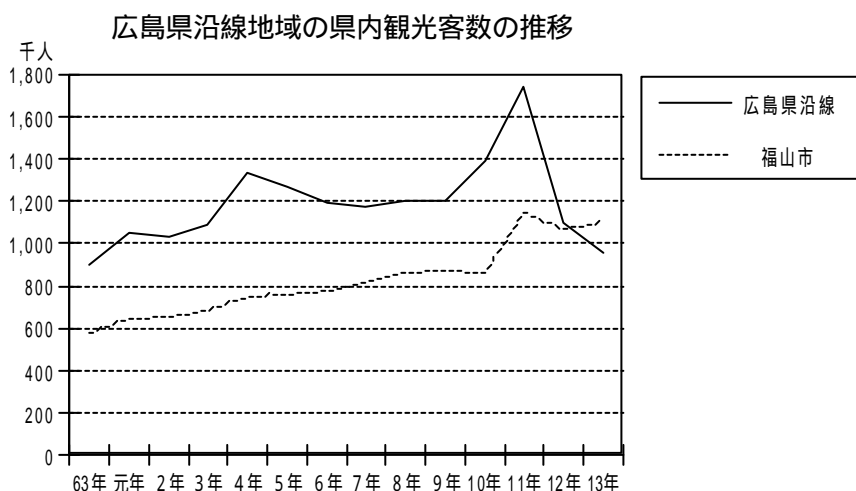


(注) 愛媛県側は地元客を含む。広島県側は含まない。以下の図表も同じ。

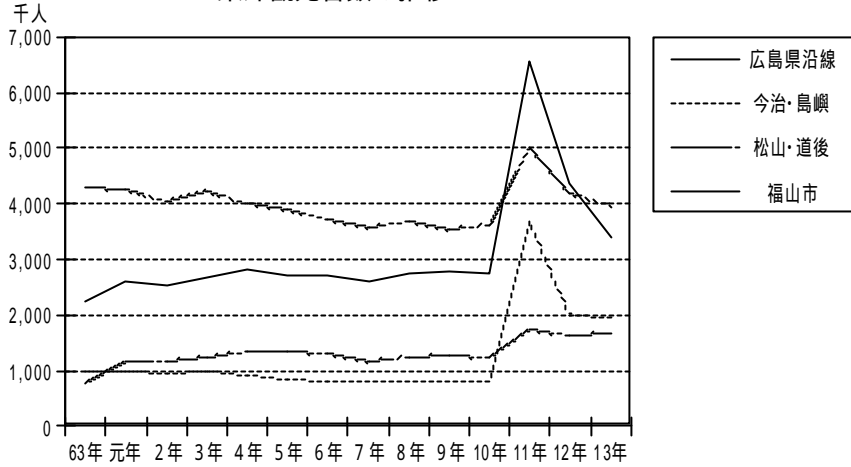
広島県沿線の入込観光客数は、平成12、13年にかけて、県内客、県外客のいずれも大幅に減少したが、平成13年時点で県外客数が平成10年を上回る規模にとどまっているのに対して、県内客数は平成初年以降最低の水準まで落ち込んでいる。入込観光客総数に占める県内客の割合は、かつての3割台から平成11年以降は約2割のレベルまで低下している。

今治・島嶼では、県外客の減少テンポに比べると、県内客のそれはかなり緩やかである。平成13年の入込観光客数は、県内客、県外客のいずれも平成10年水準を上回っている。

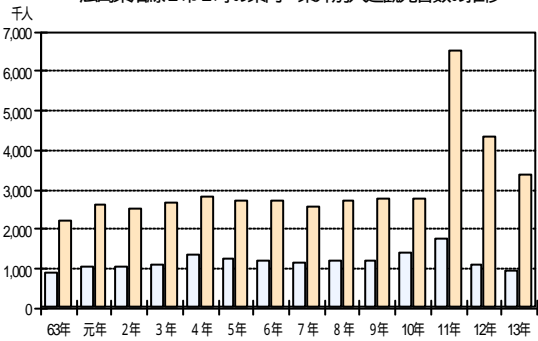
ちなみに、福山市では、県内客、県外客のいずれも平成12年には減少したが、平成13年にはやや上向き、平成11年を除けば過去最大の規模となっている。



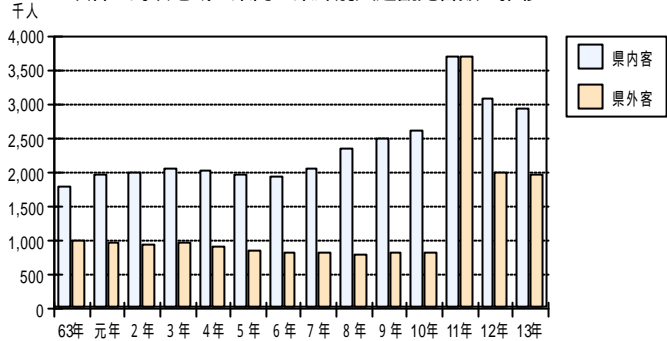
県外観光客数の推移



広島県沿線2市2町の県内・県外別入込観光客数の推移

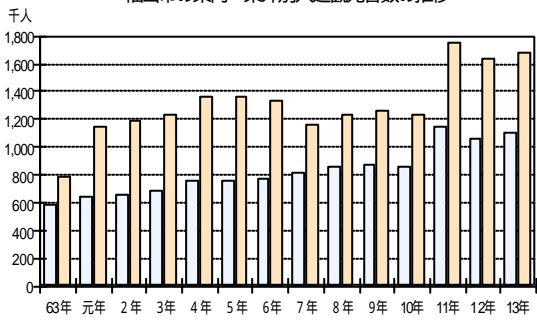


今治・島嶼地域の県内・県外別入込観光客数の推移

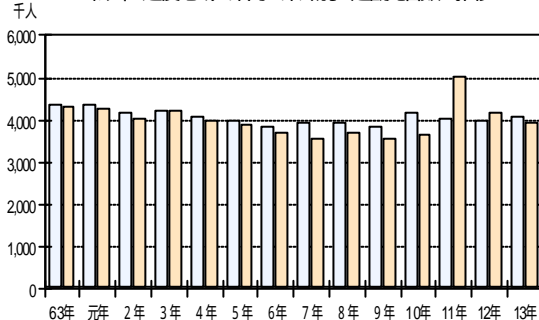


(注) 県内客には地元客を含む。

福山市の県内・県外別入込観光客数の推移



松山・道後地域の県内・県外別入込観光客数の推移



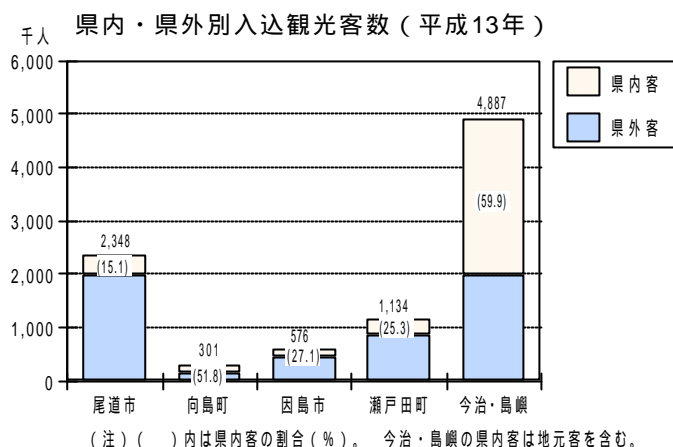
(注) 県内客には地元客を含む。

エ 市町別概況

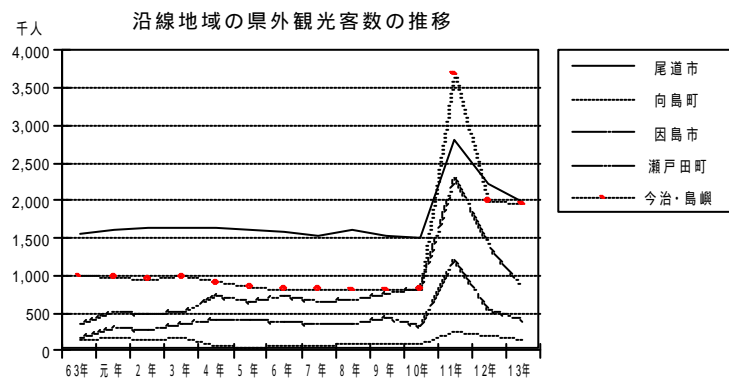
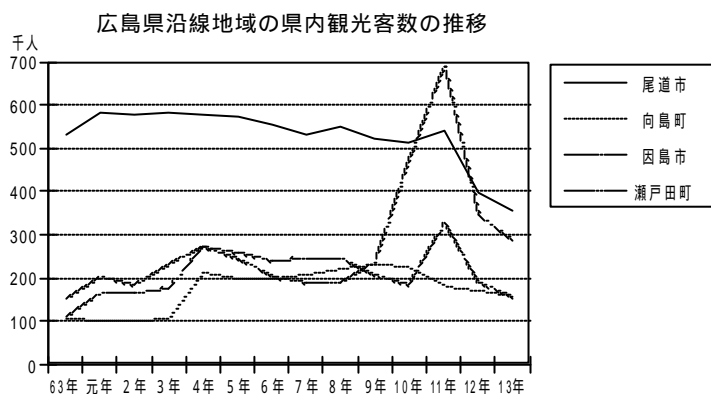
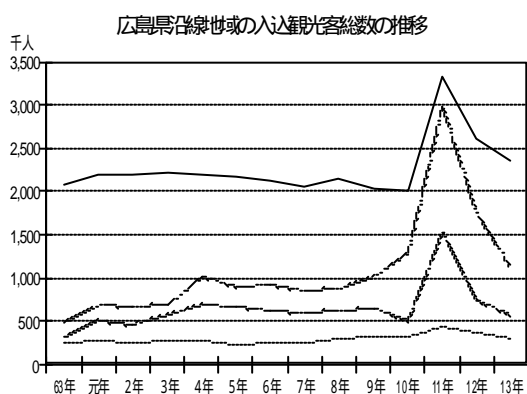
平成13年の広島県沿線の市町別入込観光客数は、尾道市2,348千人が最大で、瀬戸田町1,134千人、因島市576千人、向島町301千人、計4,359千人である。尾道市が半数強（53.9%）、瀬戸田町（26%）と合わせて約8割を占めている。

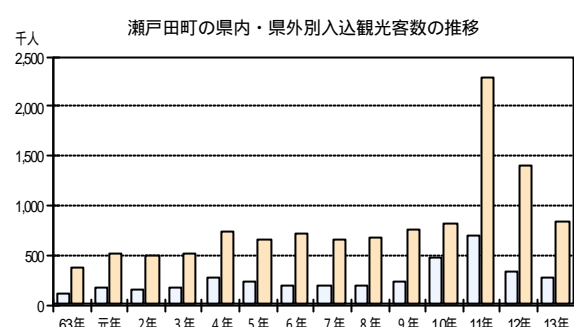
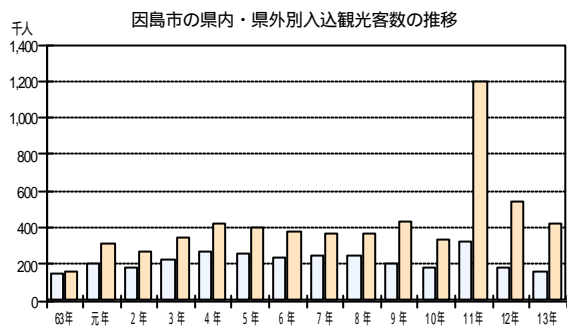
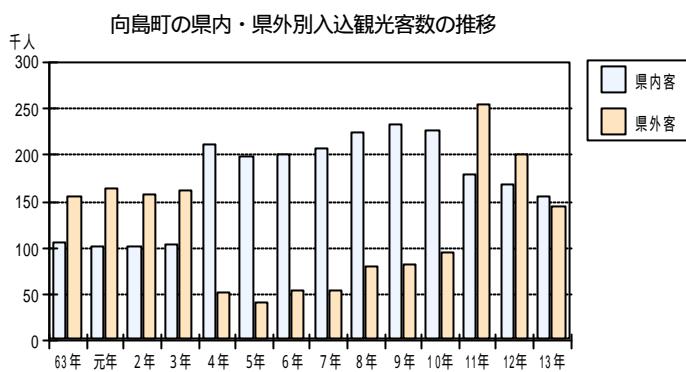
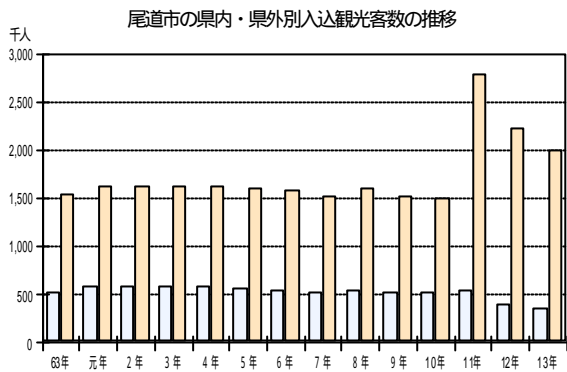
入込観光客数の差は、主として県外客数の差にもとづく。県内客数では、県外客のような大差はなく、最大の尾道市（355千人）が最小の因島市・向島町（各156千人）の2.3倍の規模である。

県内客の割合は、尾道市では15.1%と著しく低く、瀬戸田町（25.3%）、因島市（27.1%）も2割台である。向島町（51.8%）は半数を超えている。ちなみに、福山市は39.5%で、相対的にバランスのとれた構成になっている。



入込観光客総数の最近の推移をみると、向島町以外の広島県沿線2市1町では逆V字型となっている。広島県沿線の各市町では、平成12、13年にかけて、県内客、県外客のいずれも落ち込んでいるが、特に県内客において、瀬戸田町以外の2市1町では「しまなみ」全通フィーバー以前の水準をかなり下回る規模にまで減少している。県外客のみならず、本来、入込観光需要を下支えすべき県内客の集客力を低下させている点が特徴的である。





(2) 発地別県外観光客数

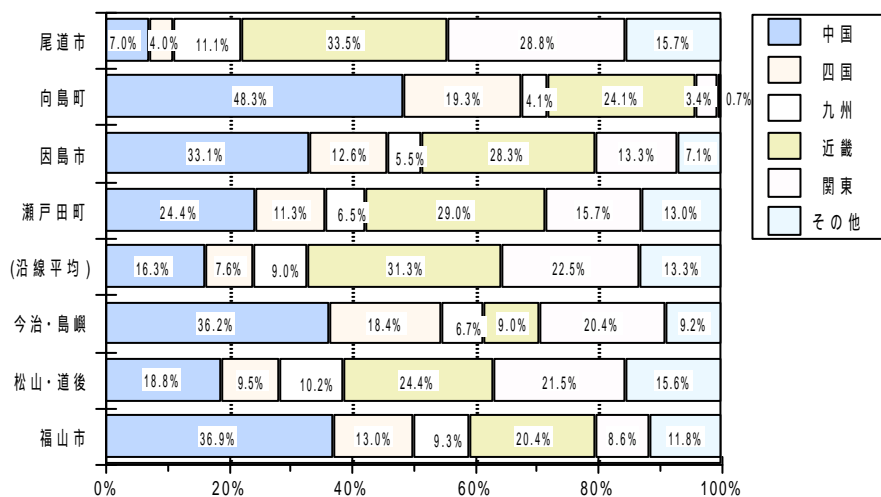
ア 概況

広島県沿線（2市2町）の県外観光客について、平成13年の発地別割合をみると、中国16.3%、四国7.6%、九州9%、近畿31.3%、関東22.5%、その他（大半は関東を除く東日本）13.3%である。中国・四国の2割強に対して、近畿・関東を主体とする大都市圏の割合が約3分の2を占め、大都市圏依存型の構成になっている。

今治・島嶼の場合は、中国36.2%、四国18.4%、九州6.7%、近畿9%、関東20.4%、その他（左記以外及び不明を含む）9.2%で、中国・四国の割合が半数を超え、広島県沿線と対照的である。とりわけ、中国が4割弱を占め、中国サイドにとって身近な観光地として位置づけられているようにみられる。

ちなみに、福山市も今治・島嶼と比較的似た構成になっており（中国・四国が約5割）県内客の割合が相対的に高いこと（約4割）と相まって、広島県沿線地域とはかなり異なる地域的特性をもっている。

県外観光客の発地別割合（平成13年）



広島県沿線地域では、「しまなみ」全通フィーバーのもとでは、近畿、関東を主体に大都市圏からの入込観光客を主体に、中国・四国、九州を含む広範囲から県外客が急増した。

フィーバー終息後の平成13年の県外客数を全通以前のレベルと比較すると、最も増加しているのは関東はじめ東日本で、近畿がこれに次ぎ、大都市圏への依存が強まっている。四国からの入込観光客数はかなり増えているが、中国、九州からの入込観光客数は全通前の規模を下回っている。

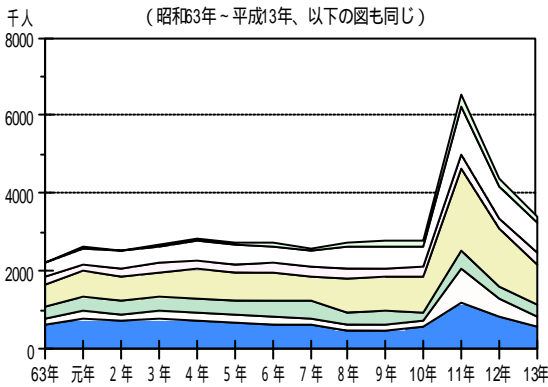
今治・島嶼の場合も、大都市圏からの入込観光客の急増がみられたが、同時に、中国・四国の県外客がそれ以上のテンポで増加している。平成13年の入込観光客数を全通前と比較してみても、全通前のレベルを大幅に上回っているのは、中国、東日本、次いで四国であり、近畿は全通前のレベルを下回っている。

広島県沿線地域では、四国からの入込観光客数(平成13年257千人)が顕著に増えず、今治・島嶼では中国からの入込観光客数(同710千人)が全通前を大きく上回っている。両地域間の交流に行き違いがみられる。

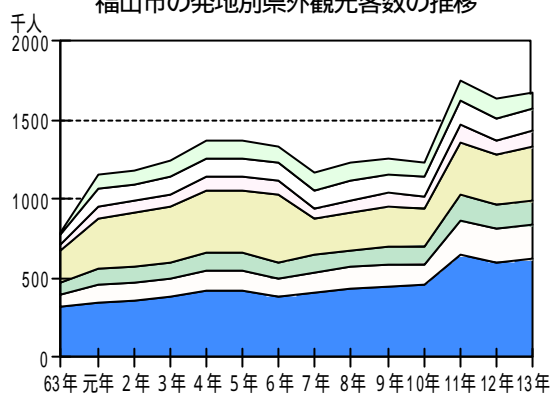
ちなみに、福山市の動向をみると、「しまなみ」フィーバー終息後の平成13年の県外観光客数を全通前のレベルと比較すると、中国、四国、九州など周辺地域からの入込観光客数が顕著に増え、大都市圏からの入込観光客の増加は、東日本以外では目立たない。

広島県沿線2市2町の発地別県外観光客数の推移

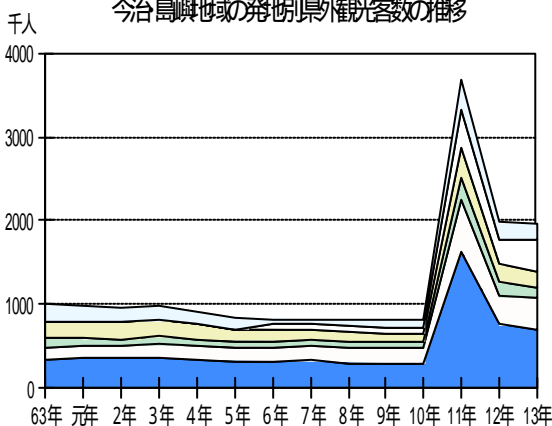
(昭和63年～平成13年、以下の図も同じ)



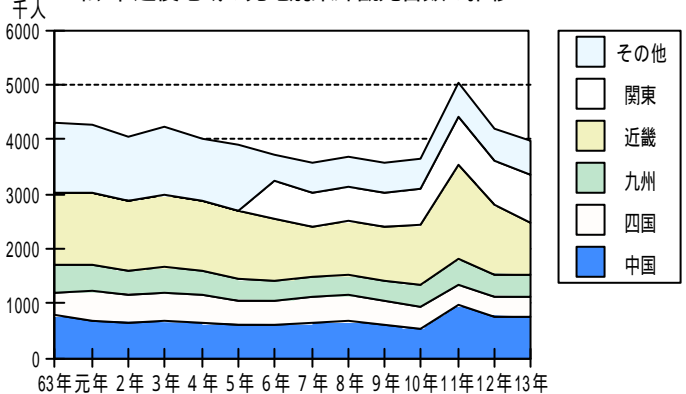
福山市の発地別県外観光客数の推移



今治・島嶼地域の発地別県外観光客数の推移



松山・道後地域の発地別県外観光客数の推移



イ 市町別県外観光客の状況

平成13年の県外観光客の発地別割合から市町別の特徴をみると、尾道市は、中国・四国の割合が低く(11%)、遠隔地、とりわけ近畿(33.5%)、関東(28.8%)の大都市圏を主体に近畿以東の割合(78%)が著しく大きく、大都市圏への依存度が強い。瀬戸田町も、近畿以東が6割近くを占め(57.7%)、大都市圏にかなりシフトした構成になっている。

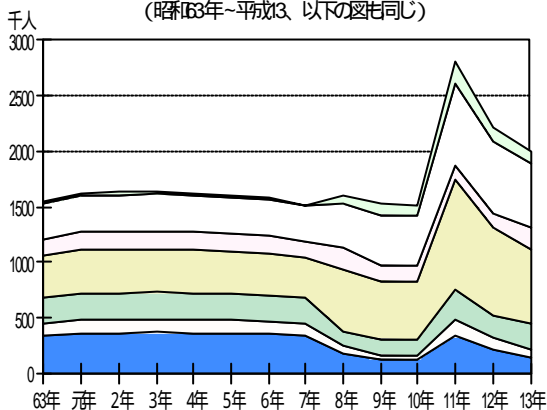
向島町では、中国・四国が約3分の2(67.6%)を占め、大都市圏からの入込観光客も近畿(24.1%)に偏っている。周辺地域依存型の構成とみられる。因島市は、瀬戸田町と向島町の間隔的な色合いが強く、大都市圏からの入込観光客は近畿(28.3%)のウエイトが大きい。

最近の推移をみると、尾道市では、「しまなみ」全通フィーバーのもとで、中国・四国、九州からの入込観光客数は全通前のレベルから大きくは伸びず、近畿をはじめ大都市圏からの入込観光客が急増した。フィーバー終息後の平成13年の入込観光客数も、大都市圏からの入込観光客数が全通前の水準を大幅に上回り、大都市圏への依存度を強めている。

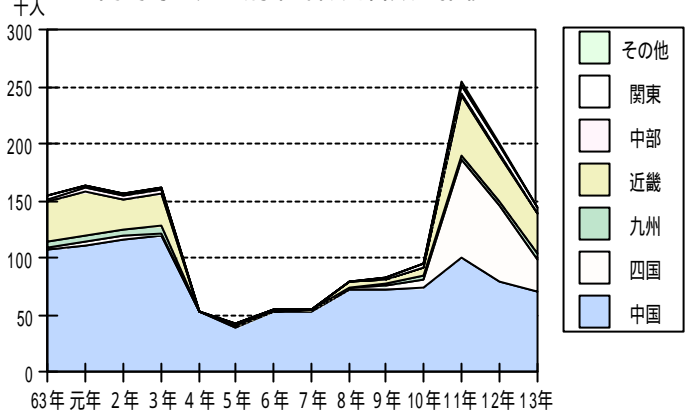
瀬戸田町では、全通フィーバーのもとでは、全国にわたり広範囲から入込観光客が急増したが、フィーバー終息後の平成13年には、中部以東を除くと、全通前の水準を顕著に上回っている地域は見当たらない。尾道市とは、かなり異なった様相がうかがわれる。

因島市も全通前と対比して顕著な変化はみられず、向島町でも、四国からの入込観光客が増加したほかは、目立った変化はうかがわれない。

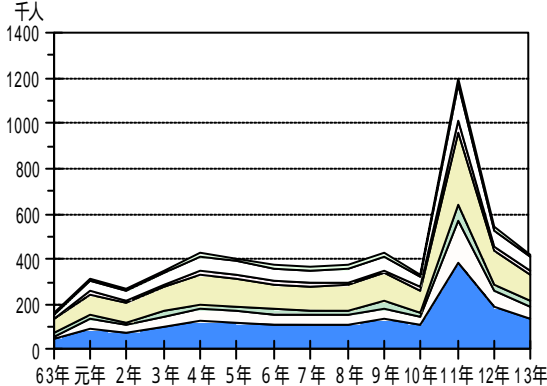
尾道市の発地別県外観光客数の推移
(昭和63年～平成13、以下の図も同じ)



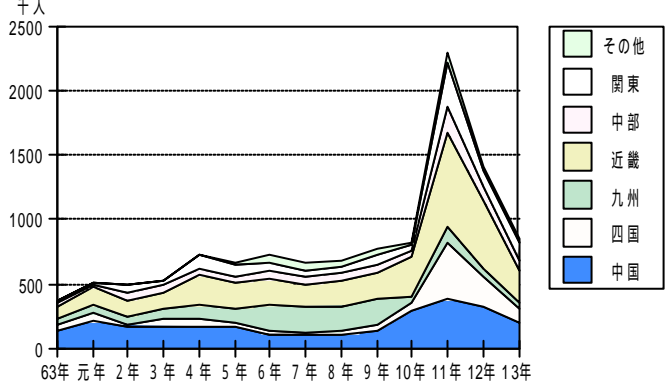
向島町の発地別県外観光客数の推移



因島市の発地別県外観光客数の推移



瀬戸田町の発地別県外観光客数の推移



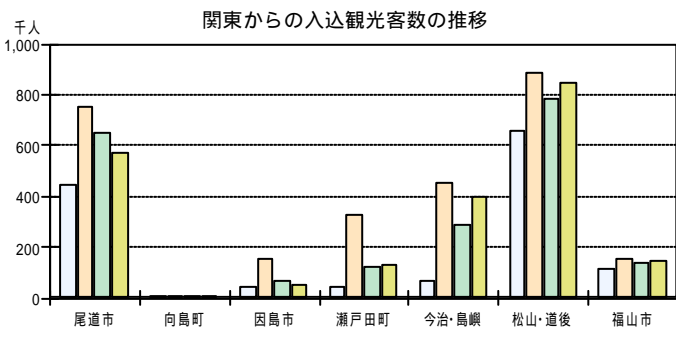
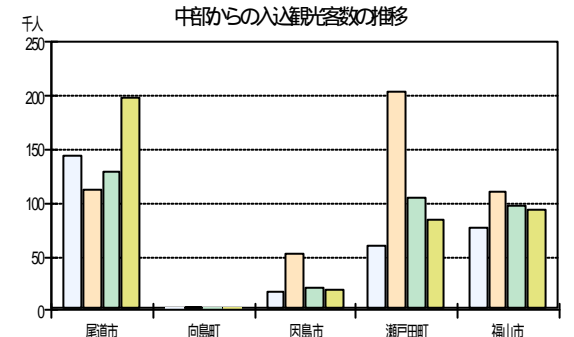
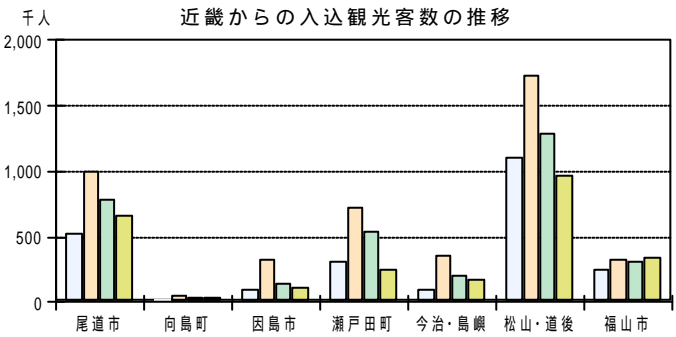
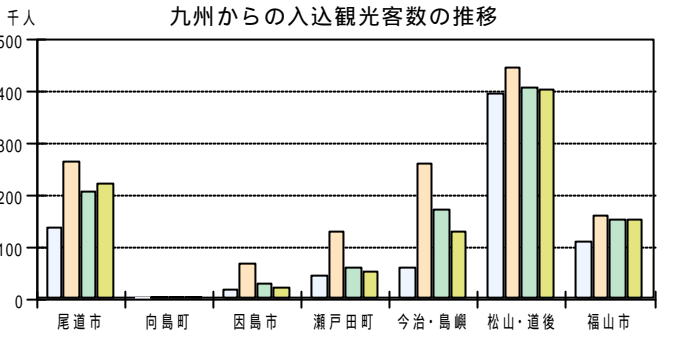
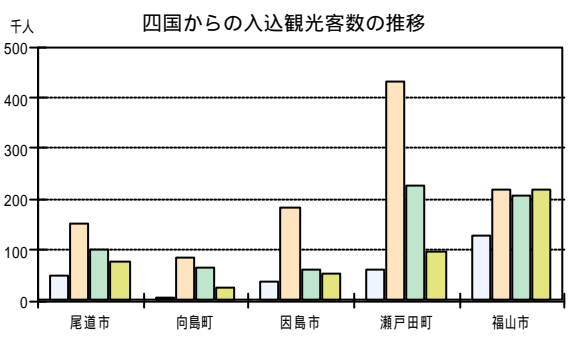
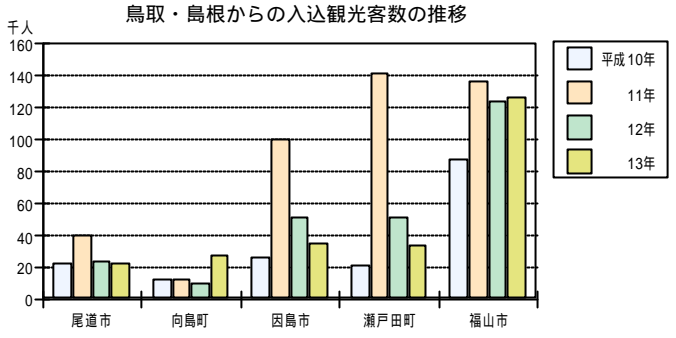
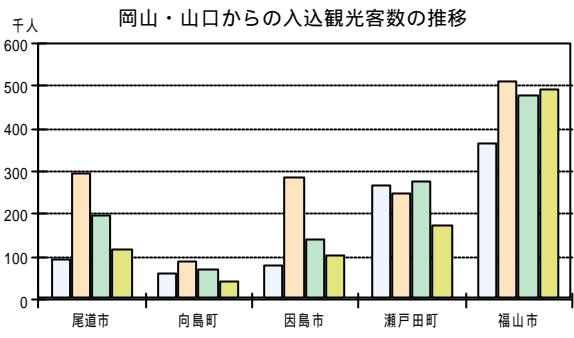
ウ 発地別県外観光客の状況

沿線地域において県外観光客が目当てとする観光拠点、ないしは県外観光客の回遊性等を大まかに推測するために、県外観光客の発地域別に、沿線ルート上の市町における入込観光客数の最近の推移をみると、次のような点が注目される。

岡山・山口、鳥取・島根、四国からの入込観光客は、平成11年の全通フィーバーのもとでは、島嶼部の瀬戸田町及び因島市に集中する傾向がみられた。そうした傾向は、フィーバー終息後の平成13年においても持続している。沿線島嶼部にとっては、周辺の中国・四国からの入込観光客が重要な顧客となっていることがわかる。

瀬戸田町を中心に、島嶼部へと流れる傾向は、全通フィーバーのもとでは、近畿、中部、関東など大都市圏からの入込観光客においても、ほぼ共通してみられた。フィーバー終息後は、この流れが弱まり、中部からの入込観光客を除くと、尾道市の集客力との差が拡大しているようにみられる。

大都市圏からの入込観光客は、新幹線、空路、高速船等の利用により、尾道市と松山市の両極に集中し、その一部が、瀬戸田・因島や今治・島嶼へと流れてきているように見える。(回遊性の低下)



(3) 目的別入込観光客数

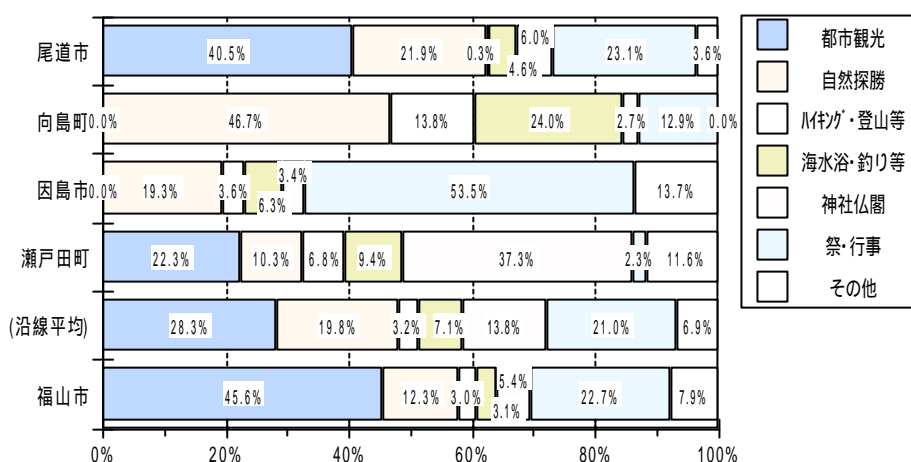
ア 概況

平成13年における広島県沿線地域（2市2町）の入込観光客の目的別割合をみると、最も多いのは都市観光で3割弱（28.3%）、次いで祭・行事（21%）、自然探勝（19.8%）が各2割前後で、これら3つの目的で約7割を占める。以下、神社仏閣（13.8%）、海水浴・釣り等（7.1%）、ハイキング・登山等（3.2%）、その他（6.9%）となっている。

都市観光は、沿線地域では、街並みや史跡めぐり、商店街等でのショッピングや飲食、芸術鑑賞や芸能関連（映画関連等）等が主体であるが、尾道・瀬戸田のこうした都市観光的な要素と、イベント、自然を合わせた3要素が、一定のバランスのもとで、集客の目玉になっている点に特徴がみられる。

ちなみに、福山市では都市観光が半数近く（45.6%）を占めている。

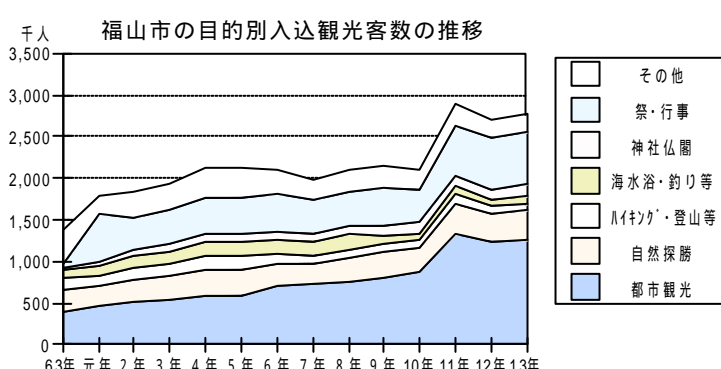
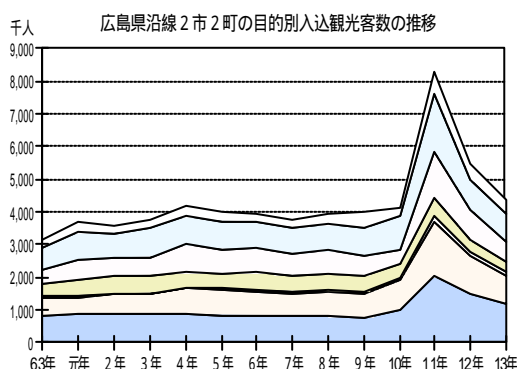
入込観光客の目的別割合（平成13年）



平成11年の全通フィーバーのもとでは、観光目的としては、都市観光、神社仏閣、自然探勝、祭・行事が目玉となって、入込観光客の急増がもたらされ、ハイキング・登山等も集客に寄与した。

これらのうち、フィーバー終息後の平成13年時点で、全通前のレベルを超えているのは、都市観光、自然探勝、ハイキング・登山等であり、都市的観光と自然体験が両輪となって衰勢に一定の歯止めをかけているのが現状と言える。

ちなみに、福山市では、都市観光と祭・行事が全体を牽引している。



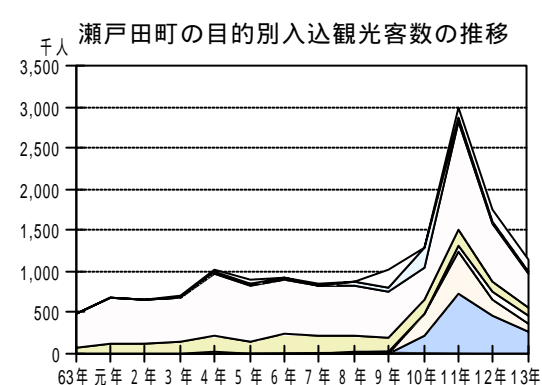
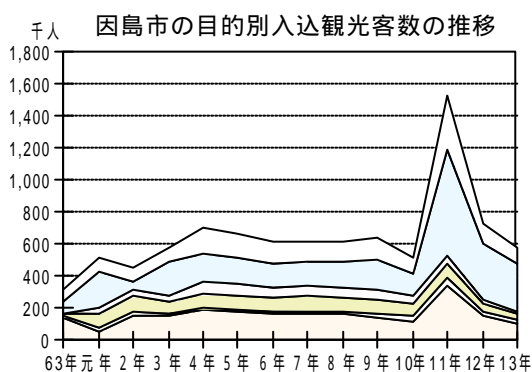
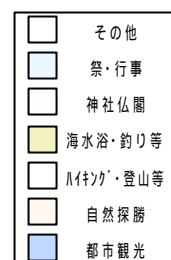
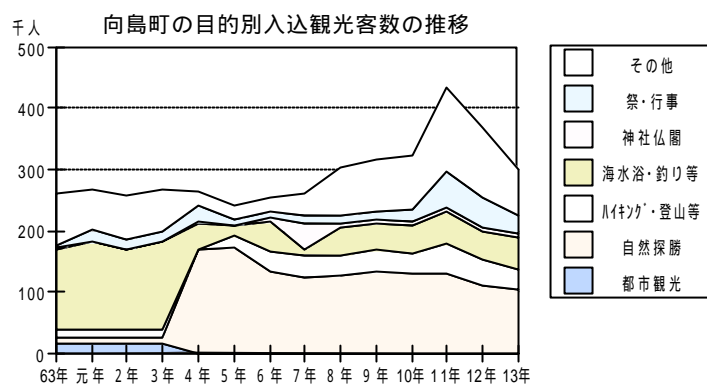
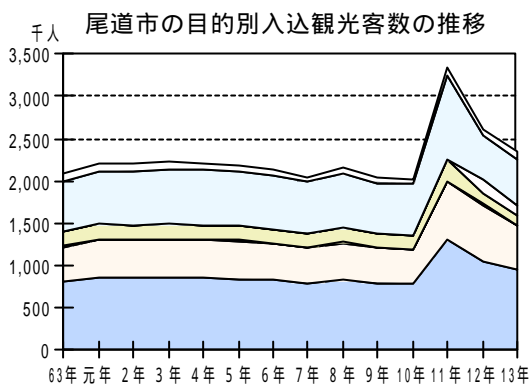
イ 市町別特徴

平成13年の目的別入込観光客数から市町別特徴をみると、尾道市では、都市観光（40.5%）をトップに、祭・行事（23.1%）、自然探勝（21.9%）が目玉であり、向島町では、自然探勝（46.7%）と海水浴・釣り等（24%）の自然系が大半を占める。

因島市では、祭・行事（53.5%）が過半を占め、自然探勝（19.3%）とともに、島嶼部らしさが集客の目玉になっている。瀬戸田町では、神社仏閣（37.3%）をトップに、美術館が主体の都市観光（22.3%）が加わり、宗教・芸術にかかるユニークな地域特性が集客のポイントになっている。

最近の推移から特徴的な点を見ると、尾道市では、全通前のレベルと対比して、都市観光と自然探勝がかなりウエイトを高めている。向島町では、自然探勝、海水浴・釣り等の自然系が全通前の水準を概ね維持している。

因島市では、目玉の祭・行事が全通前をかなり上回っている。



(4) 旅行形態別入込観光客数

ア 概況

広島県沿線地域（2市2町）における平成13年の入込観光客の旅行形態をみると、一般客75.5%、団体客23.9%、修学旅行0.6%となっている。一般客が圧倒的に多く、修学旅行は少ない。

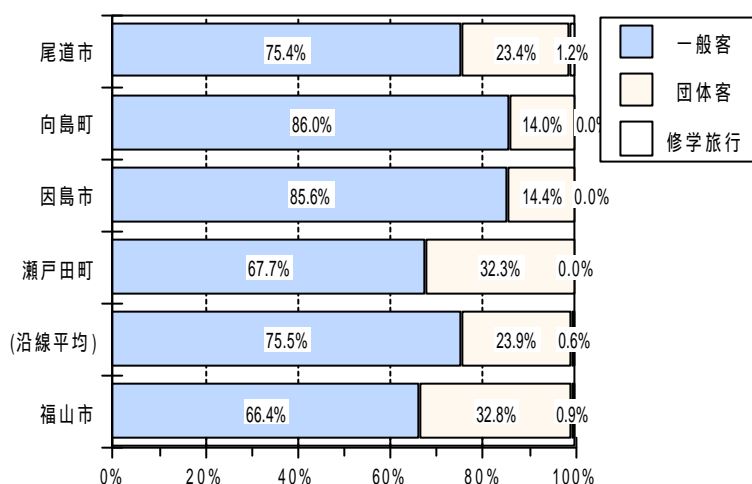
「しまなみ」全通フィーバーのもとでは、団体客が一般客を上回るテンポで増えたが、フィーバー終息後は、団体客の落ち込みが著しく、平成13年時点では全通前の水準を下回っている。

修学旅行は、全通前の規模を上回ることもなく、引き続き低迷している。

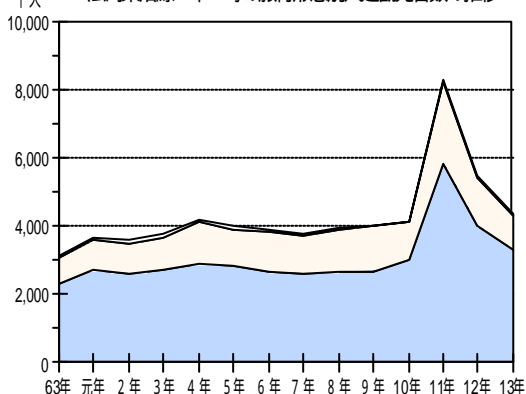
ちなみに、福山市は、一般客約3分の2（66.4%）、団体客約3分の1（32.8%）で、団体客の割合が相対的に高い（平成13年）宿泊客の割合が高いこと（後述）とも相まって、同市の入込観光客の主要な特徴になっている。

（注）団体客は10人以上の団体旅行客のこと。

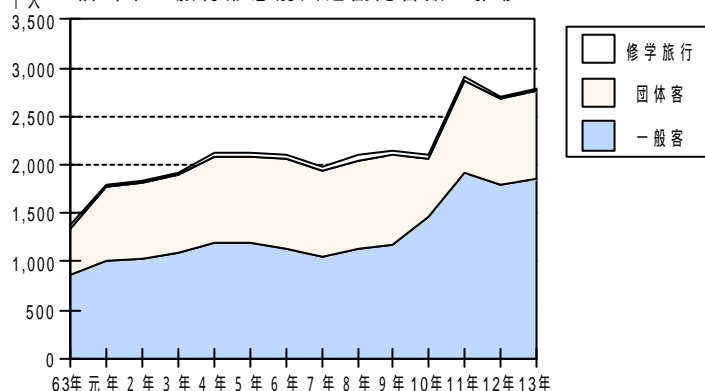
入込観光客の旅行形態別割合（平成13年）



広島県沿線2市2町の旅行形態別入込観光客数の推移



福山市の旅行形態別入込観光客数の推移



イ 市町別特徴

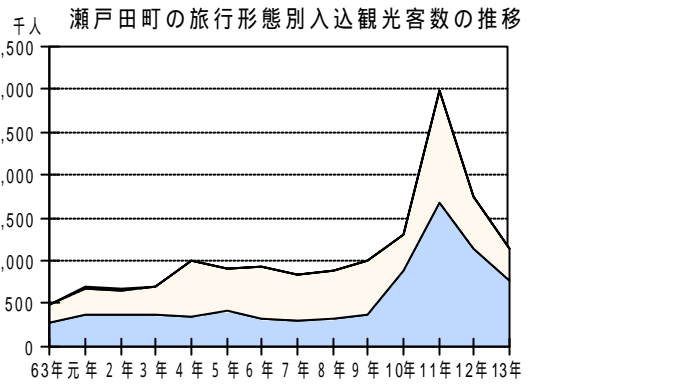
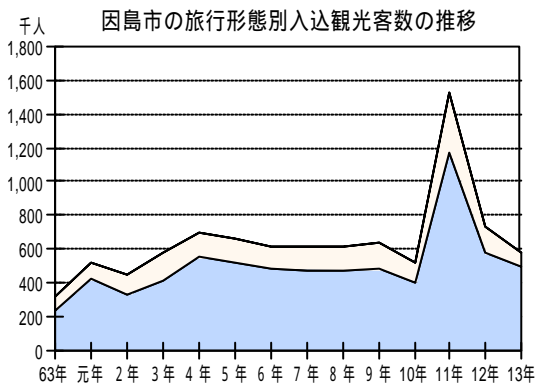
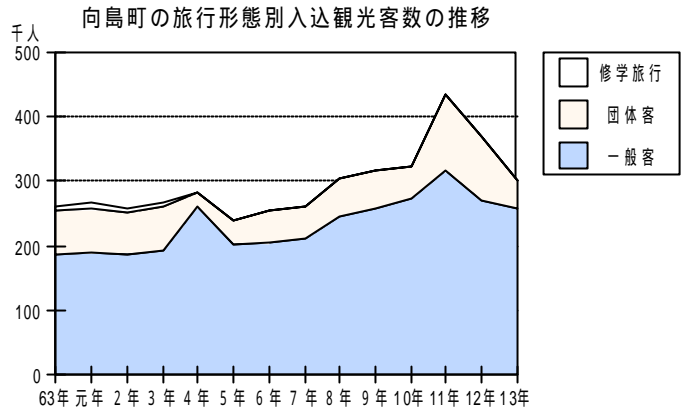
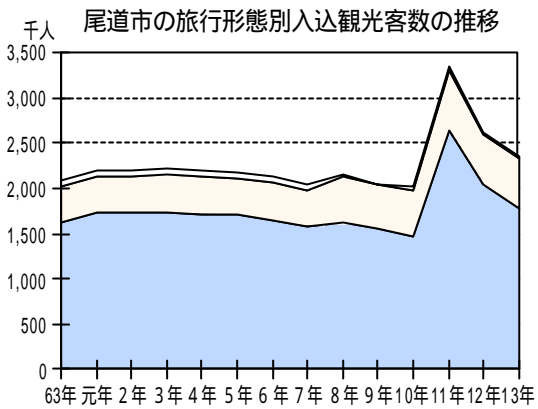
広島県沿線の2市2町について、平成13年の旅行形態別割合をみると、自然探勝や海水浴・釣り等、祭・行事をそれぞれ売り物とする向島町及び因島市では、一般客が圧倒的に多く、85~86%台を占めている。著名な神社仏閣や美術館を擁する瀬戸田町では、団体客の割合が相対的に高く、全体の約3分の1（32.3%）が団体客によって占められている。

尾道市はこれらの中で、一般客が約4分の3（75.4%）、団体客が約4分の1（23.4%）を占める。

全通フィーバーのもとでは、尾道市及び因島市では一般客、向島町では団体客の急増が入込客全体の増加

を牽引し、瀬戸田町では団体客と一般客の双方が急増した。

全通フィーバー終息後は、概して一般客と対比して団体客の減少がより顕著で、このため、瀬戸田町や向島町ではその影響が大きく現れているが、尾道市、因島市においても、一般客の激減で入込客全体は大きく減少している。

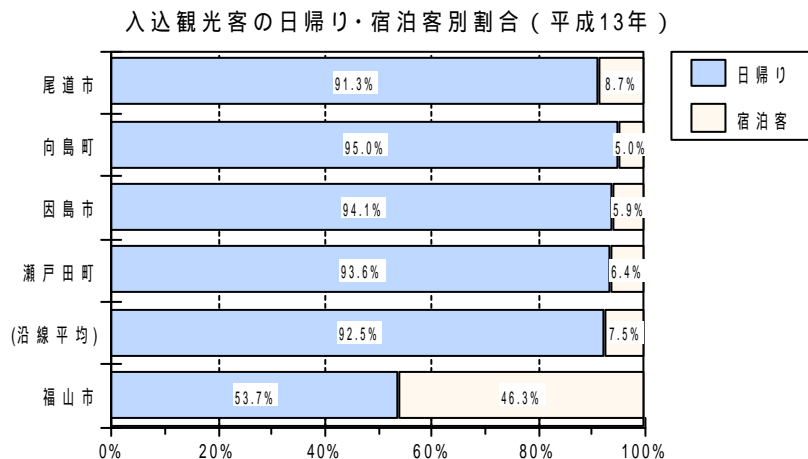


(5) 日帰り・宿泊客別入込観光客数

ア 概況

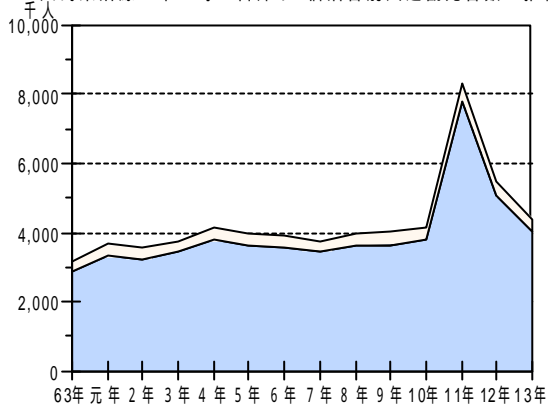
広島県沿線地域（2市2町）の平成13年の入込観光客は、日帰り客92.5%、宿泊客7.5%という割合で、日帰り客が圧倒的に多い。

ちなみに、福山市は平成13年時点で宿泊客比率46.3%、広島市は31.5%である。

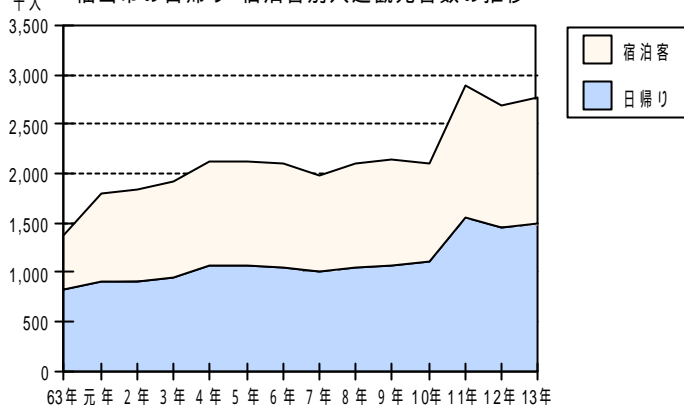


全通フィーバーの年である平成11年に、広島県沿線の2市2町の入込観光客は前年と対比して4,135千人増えたが（99.5%増）宿泊客は105千人の増加（28.4%増）にとどまった。フィーバー終息後の平成13年には、平成11年と対比して宿泊客は149千人減少し、過去10年間で最低の水準まで落ち込んでいる。沿線地域が、宿泊観光地としての魅力ないしは適性等において劣っていることを示している。平成13年の宿泊客比率（7.5%）は全通前の水準（8.6%～9.4%）をかなり下回っている。

広島県沿線2市2町の日帰り・宿泊客別入込観光客数の推移



福山市の日帰り・宿泊客別入込観光客数の推移

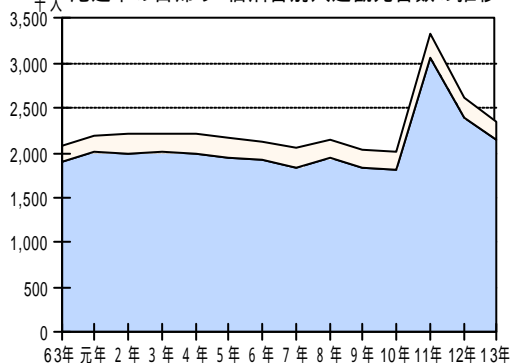


イ 市町別特徴

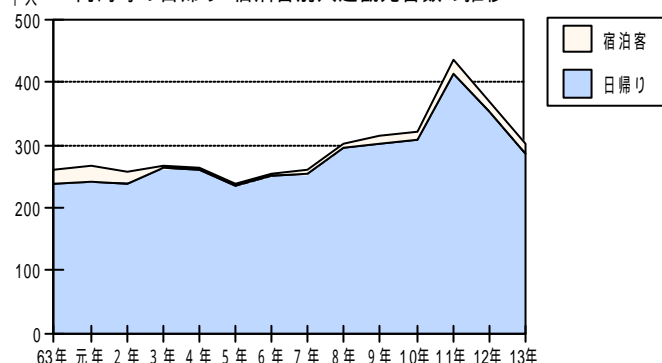
平成13年時点の宿泊客比率は、尾道市8.7%に対して、瀬戸田町6.3%、因島市5.9%、向島町5%で、尾道市と島嶼部の市町との間にはかなりの開きがある。

平成11年の全通フィーバーの年に、宿泊客は前年対比で105千人増えたが、うち78千人は尾道市の増加分であった。また平成11～13年間に宿泊客は149千人減少したが、うち75千人は尾道市での減少であった。

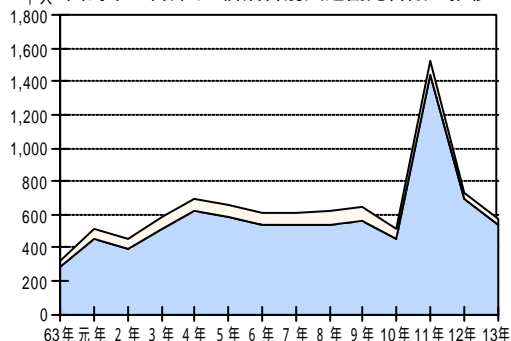
尾道市の日帰り・宿泊客別入込観光客数の推移



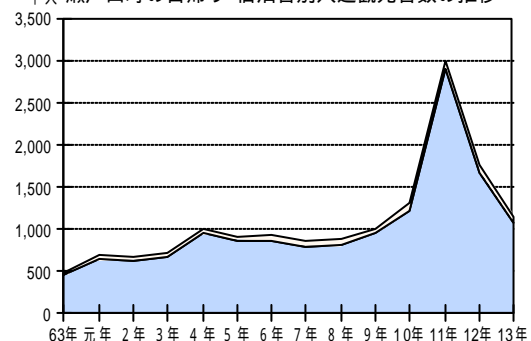
向島町の日帰り・宿泊客別入込観光客数の推移



因島市の日帰り・宿泊客別入込観光客数の推移



瀬戸田町の日帰り・宿泊客別入込観光客数の推移



ちなみに、福山市は、平成11年には宿泊客数が前年と対比して355千人増加したが、フィーバー終息後の平成13年は同11年対比で57千人の減少にとどまり、平成13年の宿泊客数は、全通フィーバーの平成11年を除くと、過去最大となっている。

広島県沿線の2市2町の中で、平成13年の宿泊客数が全通前の水準を上回っているのは瀬戸田町のみで、テーマパーク（シトラスパーク）開園の年である平成10年以前の水準をかなり上回っている。

(6) 交通機関別入込観光客数

ア 現況

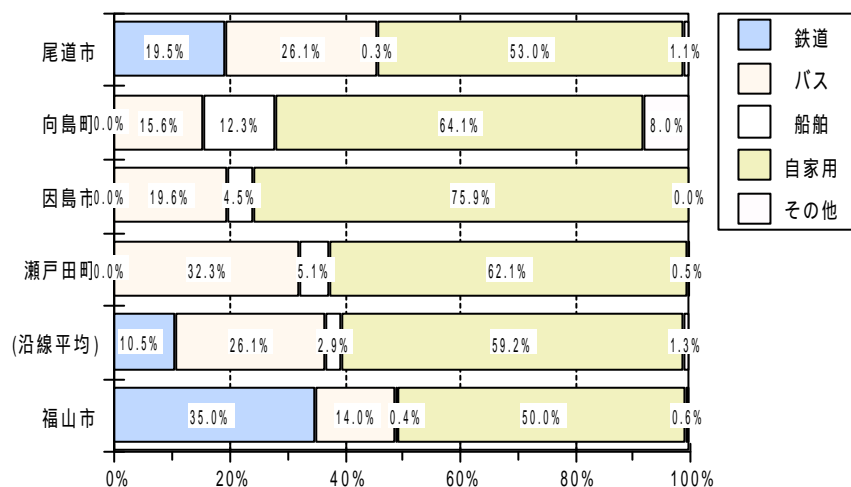
広島県沿線（2市2町）は本州にある尾道市と、島嶼部の1市2町とでは交通地理的条件が異なるために、入込観光客が利用する交通機関は自ずからかなり異なる。

平成13年時点で、2市2町は共通して自家用車が過半を占めるが、特に因島市では75.9%に及んでいる。自家用車の割合が最も低いのは尾道市（53%）で、鉄道が19.5%の割合を占めている。

向島町では、尾道水道のフェリー利用を反映して、船舶が12.3%を占めているのが特徴的である。因島市、瀬戸田町でも船舶の割合が5%前後ある。

瀬戸田町の一つの特徴は、バスの割合が相対的に高いこと（32.3%）で、神社仏閣、美術館を目的とした団体客が多いことを反映している。瀬戸田町に次いでバスの割合が高いのが尾道市である（26.1%）。ちなみに、福山市では、自家用車（50%）と鉄道（35%）が主要な交通機関になっており、個人・ファミリー・小グループ型の観光客が主体になっていることがうかがわれる。

入込観光客の交通機関別割合（平成13年）



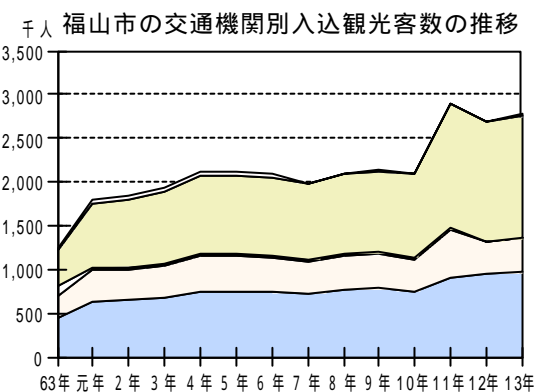
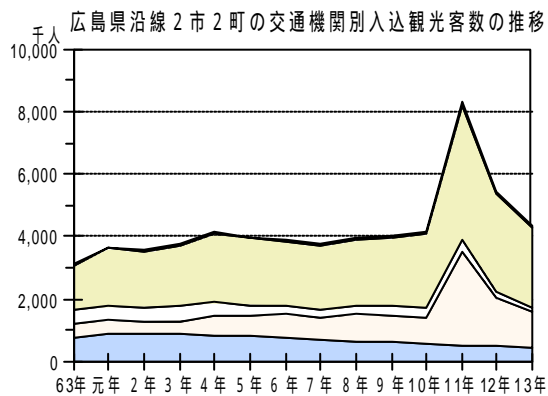
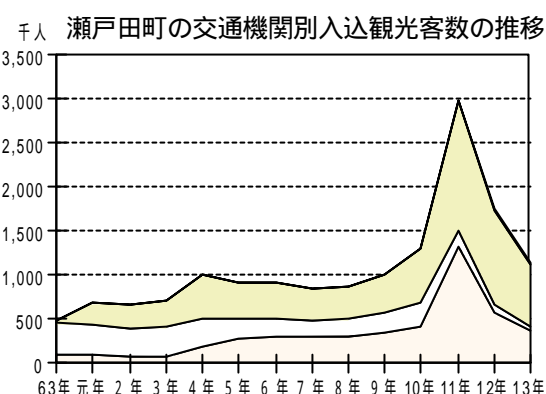
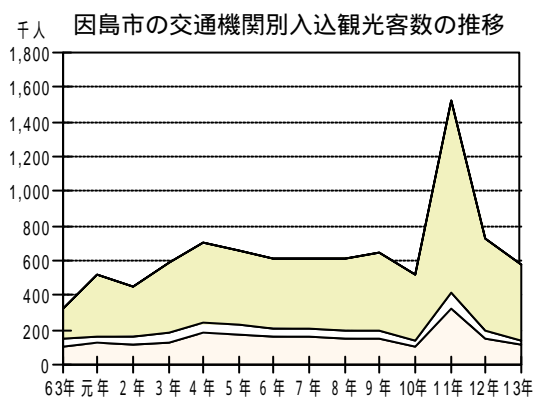
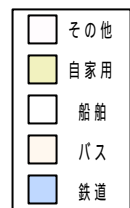
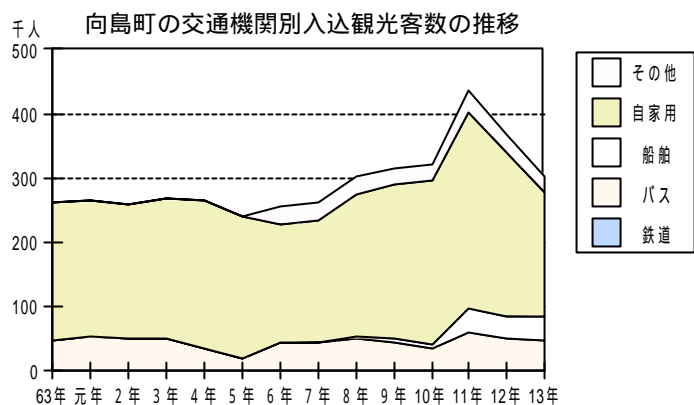
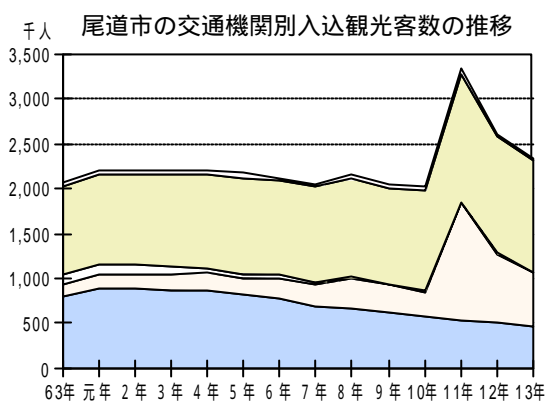
イ 最近の推移

「しまなみ海道」の全通を契機として、入込観光客の利用交通機関の分担関係もかなり変わってきている。沿線の各市町とも、自家用車がメインの交通手段として定着する中で、市町によって、全通前と比較して、かなり異なった様相がみられる。

尾道市では、鉄道利用が減り、バス、自家用車利用が増えている。鉄道利用の減少は、県内・山陽方面など周辺地域からの入込観光客の減少と関連していることも考えられる。

向島町では、船舶利用が増えている。因島市では、逆に船舶利用が減り、バスも減少し、自家用車がウエイトを高めている。

瀬戸田町では、船舶利用が激減し、自家用車が大幅に増えている。



(7) 月・季節別入込観光客数

ア 概況

平成13年における広島県沿線（2市2町）の月別入込観光客数で最も多かったのは8月（582千人）で、4月（562千人）、5月（530千人）と続いている。逆に、最も少なかったのは12月（166千人）、次いで1月（201千人）、2月（223千人）と冬場の落ち込みが大きい。

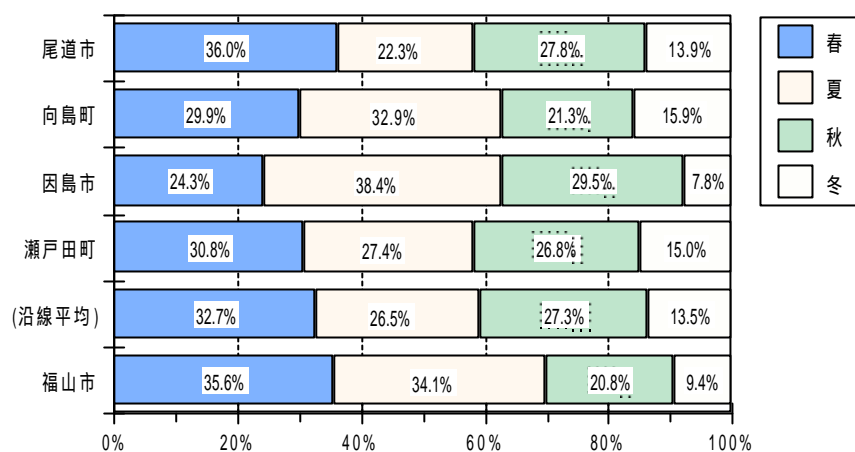
入込観光客の季節別割合は、春（32.7%）が最も多く、秋（27.3%）、夏（26.5%）と続いている。冬場を除き、年間を通して、比較的偏りのない入込がみられる点が特徴といえる。

長期的な傾向としては、緩やかではあるが、春・夏の割合が高まっているようにみられる。

ちなみに、福山市では、長期的な推移では、入込観光客が春・夏に徐々にシフトする傾向が認められる。

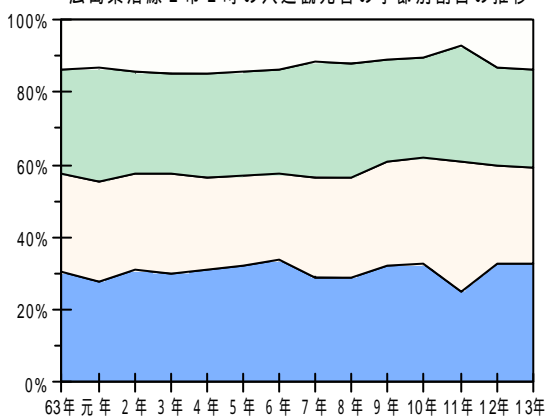
(注) 四季は次の区分による。春：3～5月、夏：6～8月、秋：9～11月、冬：12～2月。

入込観光客の季節別割合（平成13年）

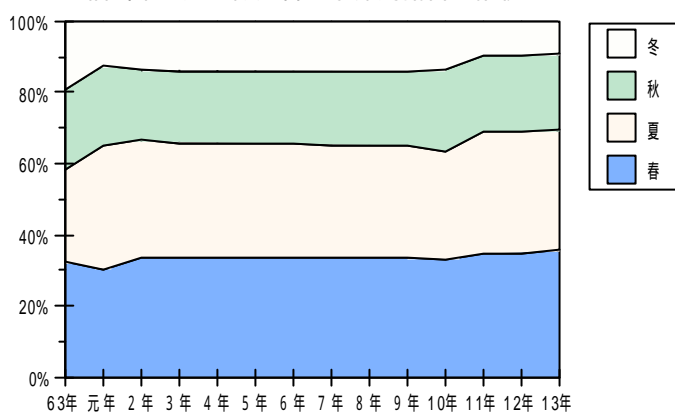


(注) 春：3～5月、夏：6～8月、秋：9～11月、冬：12～2月

広島県沿線2市2町の入込観光客の季節別割合の推移



福山市の入込観光客の季節別割合の推移



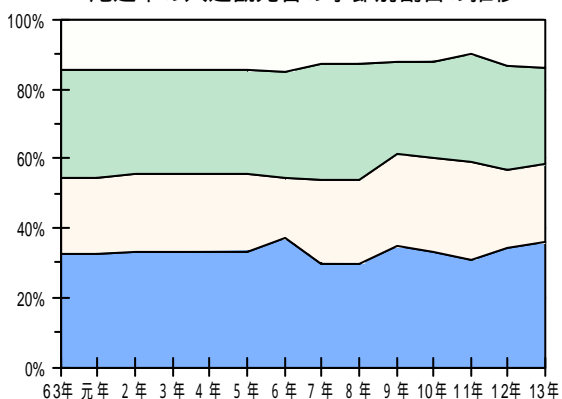
イ 市町別特徴

平成13年の年間を通して入込観光客が最も多い月は、尾道市では4月、因島市及び向島町では8月、瀬戸田町では5月と8月、また、シーズンのには、入込客が最も多い季節は、尾道市と瀬戸田町は春、因島市と向島町は夏というように、地域的に一定のバリエーションが認められる。

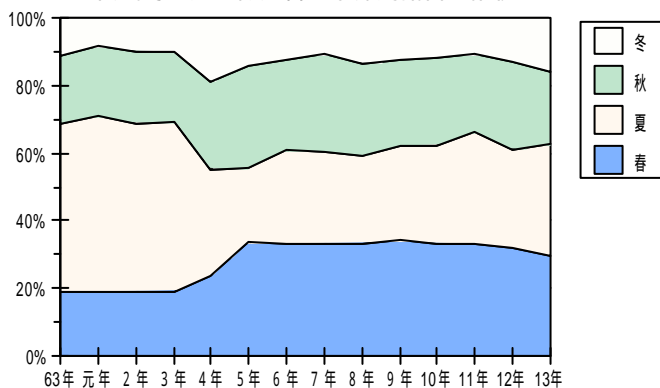
中長期的なトレンドとしては、尾道市では、緩やかではあるが秋から春へと入込観光客がシフトする傾向がうかがわれる。同様にして、瀬戸田町では夏から春へ、因島市及び向島町では逆に春から夏へと、緩やかなシフトの動きがみられる。

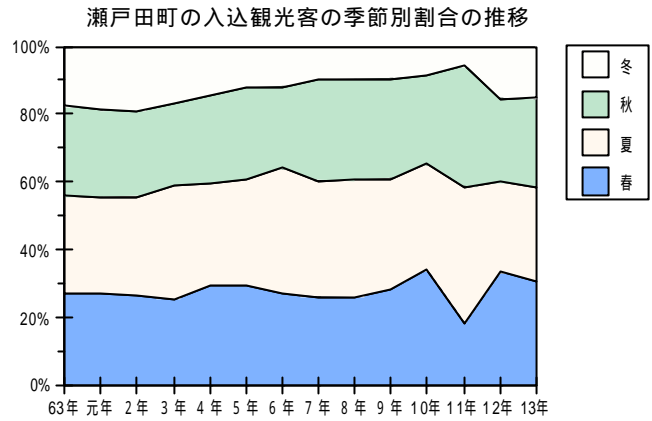
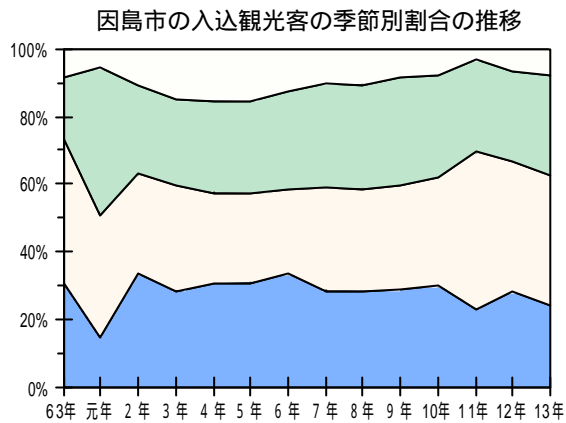
地域的に様々であるが、そうした変化の背景には、イベントの影響があるものとみられる。

尾道市の入込観光客の季節別割合の推移



向島町の入込観光客の季節別割合の推移





3 まとめと課題

(1) まとめ

ア 観光資源

広島県側は文学・芸術系、愛媛県側はグリーンツーリズム系に特色もつが
 宿泊施設に弱み、春・秋のフラワー・フルーツ、夏の水軍フェスタがイベントの華

沿線地域の観光資源

広島県側は文学・芸術系、愛媛県側は連歌・書道の大三島を接点として、農漁村をセールスポイントとするグリーンツーリズム系に特色がみられる。

テーマパーク・産業観光拠点等では、花卉・果樹をテーマとする施設が広く分布するが、古い歴史を持つ基幹的産業の造船・海運や塩田等の産業観光・産業遺跡観光施設はない。

グリーンツーリズム系の施設は全域に分布するが、両端の向島町(マリン系)と今治市(サイクリング系)が重要な位置づけにある。

滞在型観光の拠点となる温泉(宿)は湯ノ浦温泉と近隣に鈍川温泉があるが、観光地としての成熟度は高くない。

ホテル・旅館等は定員数の約6割が尾道、今治両市に集中している。

道の駅タイプの複合施設は愛媛県側に多い。

バスツアーの立ち寄り・宿泊観光地

広島発の「しまなみ海道」を利用したバスツアーは、日帰り周遊型とともに、宿泊地を拠点として周辺観光地をエンジョイする拠点型が多く売り出されている。

宿泊地としては、道後、足摺、塩江等の温泉郷、地方中核都市の高知市等が選ばれている。香川県、徳島県の温泉郷や地方中核都市を宿泊地とする拠点型は、瀬戸大橋ルートを利用している。

イベント

1年を通じて最も盛り上がる、各市町の代表的なイベントは、やはり夏型である。

代表的なイベントのテーマは多様であるが、特色は水軍関係(2本)。

イベント全体で見ると、春のイベントとしてフラワーをテーマに取り上げているものが多い。

地域的には、広島県側はオーソドックスな観賞型が多いのに対して、愛媛県側は産業観光・体験型が特徴と言える。

イ 入込観光客数

県外客536万人は広島市の県外客の3分の2規模、フィーバー終息後は
県内観光客の落ち込みが顕著、尾道市では全通前の6～7割の水準まで減少

概況

広島県沿線2市2町及び愛媛県今治・島嶼地域における平成13年の入込観光客数は約925万人で、愛媛県側は地元客を含んでいるため単純に比較はできないが、中国・四国最大の広島市の入込観光客数（約923万人）にほぼ並ぶ規模である。県外観光客だけみると、沿線地域（両県）は約536万人で、広島市（約820万人）の約3分の2の規模で、松山・道後地域（約396万人）を上回っている。

両県の沿線地域とも、入込観光客は、平成初年以降の強含み横這い傾向から、「しまなみ」全通の平成11年には一挙に倍増したが、全通フィーバー終息後は大きく落ち込んでいる。ただ、落ち込みの幅は広島県側の方が大きく、特に県内観光客数は平成初年以降では最低の水準まで減少している。

平成13年の入込観光客総数は、広島県沿線地域では「しまなみ海道」全通前年（平成10年）の水準を4%程度上回るのみであるが、今治・島嶼地域では約4割上回っている。

市町別概況

平成13年時点で、広島県沿線地域では、尾道市が入込観光客数の半数強を占め、瀬戸田町と合わせてシェアは約8割に及ぶ。

尾道市では、県外観光客の割合が著しく高く、平成13年時点で県内観光客は約15%を占めるにすぎない。瀬戸田町も県内観光客は約25%程度で、福山市（約40%）とは大差がある。

全通フィーバー終息後、平成12、13年にかけて、各市町とも入込観光客数が大きく落ち込んだが、特に県内観光客の落ち込みが著しく、尾道市の県内観光客数は全通前の6～7割の規模にまで減少している。概ね堅調な拡大傾向が続く福山市とは対照的である。

ウ 発地別県外観光客数

広島県沿線は全通フィーバー終息後中国・四国・九州の県外客が大きく落ち込み
大都市圏依存が強まる、愛媛県沿線は中国・四国の県外客が過半を占め全通前の規模を上回る

概況

広島県沿線地域における平成13年の県外観光客の発地別割合は、中国・四国が2割強、近畿・関東を主体とする大都市圏が約3分の2で、大都市圏への依存度が強い。

今治・島嶼地域の県外観光客は、中国が4割弱、中国・四国を合わせて半数を超え、広島県沿線地域とは対照的である。

「しまなみ海道」全通フィーバーのもとで、広島県沿線地域では全国規模の広範囲から県外観光客が急増したが、フィーバー終息後は、中国・四国・九州の落ち込みが大きく、大都市圏への依存が強まっている。今治・島嶼地域においても、全通フィーバーのもとでは大都市圏からの県外観光客が急増したが、中国・四国の県外観光客がそれ以上のテンポで増加するとともに、フィーバー終息後も、中国・四国の県外観光客は全通前のレベルを上回っている。

中国・四国の県外観光客の位置づけが、広島県沿線地域と今治・島嶼地域とでは、かなり異なっている。

市町別県外観光客入込状況

平成13年の県外観光客の発地別割合をみると、尾道市では中国・四国の割合が著しく低く、大都市圏依存型の構成であり、瀬戸田町もほぼ似た構成になっている。

向島町は中国・四国の割合が高く、周辺地域依存型であり、因島市はこれら両タイプの間隔的な色合いが強い。

尾道市では、全通フィーバーのもとでも中国・四国・九州からの入込観光客数が大きくは伸びず、大都市圏からの入込観光客が急増するとともに、フィーバー終息後も大都市圏への依存を強めている。瀬戸田町も、全通フィーバーのもとで全国の広範囲から入込観光客が急増したが、フィーバー終息後は総じて大きく落ち込み、尾道市とはかなり異なった様相がみられる。

山陽・山陰・四国の県外客の島嶼部集中傾向が続く、フィーバー終息後は大都市圏の県外客の島嶼部への入込傾向が弱まり、尾道・松山の拠点性が強まる

発地別県外観光客入込状況

県外観光客の発地域別に、沿線ルート上の市町における入込観光客数の推移をみると、山陽・山陰・四国からの入込観光客は、全通フィーバーのもとでは、島嶼部の瀬戸田町・因島市に集中する傾向がみられたが、こうした傾向はフィーバー終息後も持続している。島嶼部にとっては、周辺の中国・四国からの入込観光客が重要な顧客になっている。

全通フィーバーのもとでは、県外観光客が、瀬戸田町を中心として、島嶼部へと流れる傾向は、大都市圏からの入込観光客においても、ほぼ共通してみられたが、フィーバー終息後は、この流れが弱まり、尾道市との集客力の差が拡大しているようにみられる。

フィーバー終息後は、大都市圏からの入込観光客は、新幹線、空路、高速船等の利用により、尾道市と松山市の両極に集中し、その一部が瀬戸田・因島や今治・島嶼地域へと流れる方向に変わってきているようにみえる。

エ 目的別入込観光客数（広島県沿線地域）

尾道：都市観光、向島：自然、因島：イベント、瀬戸田：神社仏閣・芸術系と多彩な売り物、フィーバー終息後は都市的観光と自然体験を両輪として衰勢に歯止め

概況

平成13年における広島県沿線（2市2町）の入込観光客の目的別割合は、最多は都市観光の3割弱、これと祭・行事、自然探勝の3つの目的で7割を占めている。

都市観光は、街並みや史跡めぐり、商店街でのショッピング・飲食、芸術鑑賞（美術館等）や芸能関連（映画関連等）などが主体で、尾道・瀬戸田のこうした都市観光的な要素と、イベント、自然を合わせた3要素が、一定のバランスのもとで、集客の目玉になっている。

全通フィーバーのもとでは、沿線の様々な資源が入込観光客の急増に寄与したが、フィーバー終息後の平成13年時点で、全通前のレベルを超えているのは、都市観光、自然探勝、ハイキング・登山等であり、都市的観光と自然体験が車の両輪となって衰勢に歯止めをかけていると言える。

市町別特徴

尾道市は都市観光をトップに、祭・行事、自然探勝が目玉であるが、向島町では、自然探勝と海水浴・釣り等の自然系が大半を占めている。

因島市では、祭・行事が過半を占め、自然探勝とともに、島嶼部らしさが集客の目玉になっている。瀬戸田町は、神社仏閣をトップに、「しまなみ」全通を契機に都市観光（美術館）が加わり、宗教・芸術にかかるユニークな地域特性が集客のポイントになっている。

オ 旅行形態別入込観光客数（広島県沿線地域）

尾道市を含め一般客が大半を占める（8割弱）全通フィーバーで団体客が大きく伸びるも終息後は全通前の規模を下回る、瀬戸田町への影響が大

概況

一般客が圧倒的に多く、平成13年の入込客の約4分の3を占める。修学旅行は少ない（1%以下）。「しまなみ」全通フィーバーのもとでは、団体客が一般客を上回るテンポで急増したが、フィーバー終息後は、団体客の落ち込みが著しく、全通前の規模を下回っている。

市町別特徴

自然探勝や海水浴・釣り等、祭・行事を売り物にする向島町や因島市では、一般客が圧倒的に多い（9割弱）。

社寺仏閣や都市観光が主体の瀬戸田町では、団体客の割合が相対的に高く約3分の1を占めている。

尾道市はこれらの中で、一般客約4分の3、団体客約4分の1という構成になっている。

全通フィーバー終息後の団体客の急減に伴い、瀬戸田町ではその影響が大きく現れているが、尾道市、因島市でも、一般客の落ち込みで入込観光客数は大きく減少している。

カ 日帰り・宿泊客別入込観光客数（広島県沿線地域）

尾道市を含め圧倒的に多い日帰り客（9割強）全通フィーバーのもとでも宿泊客は顕著に伸びず、フィーバー終息後の宿泊客数は過去10年間で最低に

概況

広島県沿線地域では日帰り客が圧倒的に多く、平成13年の入込観光客の9割強を占め、宿泊客は7.5%にとどまる（ちなみに福山市の宿泊客比率46.3%、広島市31.5%）。

全通フィーバーのもとでも、宿泊客の伸びは日帰り客を大きく下回り（平成11年の宿泊客の対前年比28%増、日帰り客2.1倍）、フィーバー終息後は大幅に減少し、平成13年の宿泊客数は過去10年間で最低の水準となっている。宿泊観光地としての魅力ないしは適性等において劣っていることを示している。

市町別特徴

平成13年の宿泊客比率は、最も高い尾道市でも1割以下（8.7%）で、島嶼部の市町はいずれも5～6%台にすぎない。

平成13年の全通フィーバーのもとで、尾道市の宿泊客数は4割近く増加したが、平成13年には全通前の水準にほぼ戻っている。島嶼部では、瀬戸田町の平成13年の宿泊客数が、10年以前の水準をかなり上回っている。

キ 交通機関別入込観光客数（広島県沿線地域）

入込観光客の過半が自家用車を利用するなか因島市の自家用車比率が最大（76%）、総じて鉄道・船舶比率が減少し、バス・自家用車比率が増加

現況

広島県沿線地域のいずれの市町においても、平成13年時点で、入込観光客の過半が自家用車によっているが、因島市では自家用車利用が4分の3に及んでいる。最も低い尾道市の自家用車比率は5割強で、鉄道が約2割を占めている。

島嶼部では、依然として船舶利用が残っているが（4～12%）、団体客が相対的に多い瀬戸田町では、バ

スが約3分の1を占めている（いずれも平成13年）。

最近の推移

沿線地域全体として、「しまなみ海道」全通を契機として、鉄道及び船舶の利用割合が減少し、かわって、バス及び自家用車の利用割合が拡大している。

尾道市では、鉄道の利用割合が大幅に低下し、バス、自家用車が増えている。鉄道の減少には、県内・山陽方面など周辺地域からの入込観光客の減少との関連も想定される。

ク 月・季節別入込観光客数（広島県沿線地域）

各市町が特色をもち春・夏・秋と年間を通してほぼ偏りなく集客、
尾道市・瀬戸田町では春、因島市・向島町では夏へと入込客が緩やかにシフト

概況

平成13年時点で、広島県沿線地域における月別入込観光客数の最多は8月で、4月、5月と続いている。季節別では、春が最も多く、秋、夏と続き、冬場を除き、年間を通して比較的偏りのない集客がみられる点が特徴である。

長期的な推移でみると、入込観光客が春・夏に徐々にシフトする傾向がみられる。

市町別特徴

平成13年時点で、入込観光客が最も多いシーズンは、尾道市と瀬戸田町は春、因島市と向島町は夏で、地域的に一定のバリエーションがみとめられる。

中長期的なトレンドとしては、尾道市では秋から春へ、瀬戸田町では夏から春へ、因島市と向島町では逆に春から夏へと、緩やかではあるが、入込観光客がシフトする傾向がうかがわれる。

こうした地域的な多様性や変化の背景には、イベントの影響があるものとみられる。

(2) 課題

以上の現状把握を踏まえ、「しまなみ海道」の利用促進へ向けた主要課題を整理すると次の通りである。

ア 観光資源の活用

尾道市の文学系と沿線島嶼部の芸術系の連携。

グリーンツーリズムにおける沿線地域間の連携。

瀬戸内海における商船建造で最古級の歴史を有する造船の産業観光施設の検討。（呉の軍艦、「しまなみ」の木船・商船）

塩田の産業観光施設の検討。

滞在型観光の拠点性強化に向けた方策が必要。

「しまなみ」沿線地域での滞留性を高める方策が必要。

山・高原地域（キャンプ・リゾート地等）との連携による売り込み。

春・秋の熟年型、夏のファミリー型に重点を置いた誘客の推進。

広島、愛媛両県サイドの特徴を活かした地域連携の推進。

イ 観光客の誘致

ワンランク上の観光地を目指した条件整備の推進。

観光需要を下支えする県内客のニーズに応える観光地・集客都市の魅力づくり。

中国・四国・九州と大都市圏の地域性に対応した誘致策の推進。

山陰・中四国内陸部からのビジターズ誘致策の推進。

尾道、松山と沿線島嶼部を結ぶ観光ルート化の推進。
市町・島別に特化した観光・集客戦略の推進と市町・島間の連携強化
個人客、団体客の各ニーズに対応した基盤整備の推進。
宿泊客誘致策の推進と宿泊施設関係者の意識改革
中国・四国の宿泊観光拠点と連携した観光客誘致策の推進。
余裕のある駐車場の確保と適正配置。
市町・島別にターゲットを絞った季節戦略づくりと市町・島間の連携強化。